# 2015.9 中間期ディスクロージャー誌 <資料編>

			1,70=- 1,2,30,000
	名	称	株式会社 秋田銀行 The Akita Bank,Ltd.
	本 店 所 在	地	秋田県秋田市山王三丁目2番1号
***	創	業	明治12年(1879年) 1月
***	総資	産	2兆9,258億円
•••	預金・譲渡性預	金	2兆5,609億円
	貸 出	金	1兆5,771億円
	資 本	金	141億円
	発 行 済 株 式	数	186,936千株
	自己資本比	率	11.32% (国内基準)
	長 期 格	付	A <sup>+</sup> (JCR)
	従 業 員	数	1,453名
***	拠 点	数	本支店・出張所/96か所(秋田県内80、秋田県外15、インターネット1) 店舗外出張所/175か所

## ●目次 -

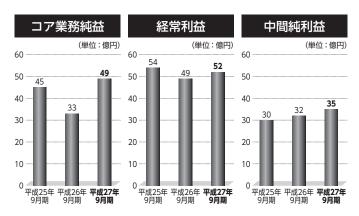
業績ハイライト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
中小企業の経営支援および地域の活性化に関する取組み	3
平成27年度中間決算の概要	8
営業の概況(連結)	8
主要な経営指標等の推移(連結)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
中間連結財務諸表	10
セグメント情報	18
営業の概況(単体)	19
主要な経営指標等の推移(単体)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
中間財務諸表	20
損益の状況等	25
預金業務	28
融資業務	29
証券業務	31
国際・為替業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
時価情報	33
デリバティブ取引情報	35
オフ・バランス取引	37
経営効率	38
資本·株式等	39
自己資本の充実の状況等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	40
自己資本の構成に関する開示事項(連結)	40
定量的な開示項目(連結)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41
自己資本の構成に関する開示事項(単体)	47
定量的な開示項目(単体)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
開示項目一覧	54

## 業績ハイライト

### ●収益の状況

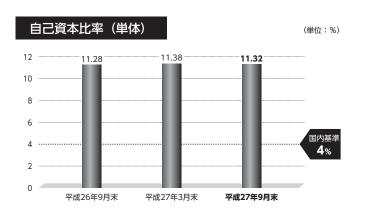
コア業務純益は、資金利益の増加や経費の減少により、前年同期比16億円増加し、**49億円**となりました。

経常利益は、与信関係費用の戻入益が減少したもののコア業務純益の増加により、前年同期比3億円増加の**52億円**となり、中間純利益は前年同期比3億円増加の**35億円**となりました。



### ●自己資本比率の状況

平成27年9月末の自己資本比率は、貸出金の増加などによりリスク・アセットが増加したため、前期末比0.06ポイント低下し11.32%となりましたが、引き続き国内基準行に求められる4%を大きく上回る水準を維持しております。



### ●不良債権の状況

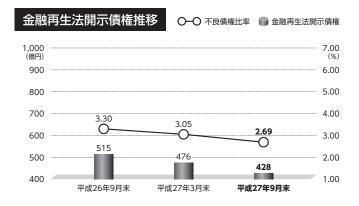
平成27年9月末の不良債権(金融再生法開 示債権ベース)は、前期末比48億円減少し、 **428億円**となりました。

また、不良債権発生への備えとなる貸倒引当金および担保・保証による保全額は、375億円で、保全率は87.69%です。

仮に、これらがすべて回収不能となった場合、追加で必要な不良債権処理費用は53億円ですが、「利益剰余金」(1,082億円)だけでも十分対応可能な水準です。

0.8%

0.0%



### 金融再生法開示債権の状況

正常債権

1兆5,442億円

97.3%

(平成27年9月末現在)

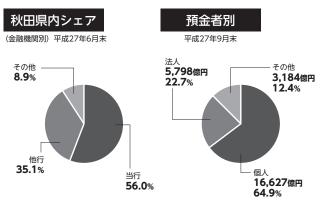
### 金融再生法開示債権に対する保全の状況

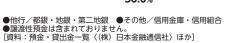
(単位:億円) 残高 保全 区 分 保全率 (B) + (C) = (D) 担保・保証等 (B) 貸倒引当金 (C) (A) (%) 破産更生債権及び 93 128 128 35 100.00 これらに準ずる債権 危険債権 296 245 210 35 82.82 要管理債権 4 2 2 1 54.34 428 375 合 計 246 129 87.69

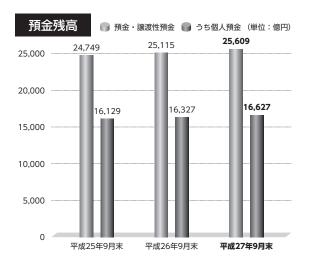
> E) 1. 単位未満四捨五入 2. 保全率= (D) ÷ (A) ×100

### ●預金の状況

個人預金、法人預金ともに増加し、前年同期末比494 億円増加し、**2兆5,609億円**となりました。

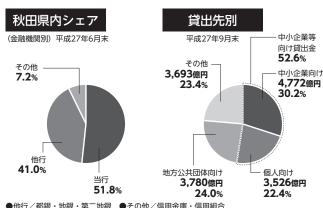




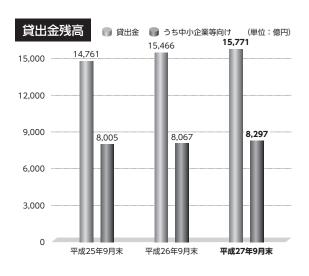


### ●貸出金の状況

事業先向け貸出金や個人ローンの増加により、前年同期末比305億円増加し、**1兆5,771億円**となりました。

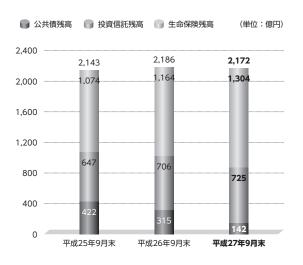






### ●預り資産の状況

預り資産は、投資信託および生命保険の販売が順調に 推移しましたが、公共債の減少により、前年同期末比14 億円減少し、**2,172億円**となりました。



## 中小企業の経営支援および地域の活性化に関する取組み

### 中小企業の経営支援に関する取組方針

当行は、「地域とともに歩み、地域の発展とともに栄える」という「地域共栄」の経営理念のもと、地域経済を支える中小企業の皆さまの経営支援に積極的に取り組んでおります。

また、「期待を超える価値を提供しつづける銀行」を中期的な目標とする姿として掲げ、これを達成するため、平成25年4月から平成28年3月までの3年間の中期経営計画「あきぎん〈しんか³〉プロジェクト」を策定し、諸施策に取り組んでおります。

当行では、こうした「経営理念」および「目標とする姿」を実現するための取組みを通じて、中小企業の皆さまの経営支援に努め、地域経済・地域社会の発展に貢献してまいります。

## **経営理念** 「地 域 共 栄」

### 目標とする姿

「期待を超える価値を提供しつづける銀行」

**中期経営計画** 計画期間 平成25年4月~28年3月 「あきぎんくしんか<sup>3</sup>>プロジェクト」

## 中期経営計画の重点方針と中小企業の経営支援に関する諸施策

重点方針Ⅰ ■ お客様との取引の「深化」による収益基盤の確立

- ・法人取引の「メイン化」の推進・事業先開拓の推進強化
- ・貿易為替の増強、海外取引関連の案件取込み

重点方針Ⅱ ■ 一人ひとりが「真価」を発揮する組織の構築

- ・事業先開拓行員研修の実施・海外取引支援を担う人材の育成
- ・営業店組織の改正による、お取引先の課題解決力の高度化と人材育成の強化

重点方針Ⅲ ■ 「新価」の創造による地域発展への貢献

- ・営業店、本部が一体となったソリューション営業の強化
- ・海外取引の支援強化に向けた業務提携先の拡大
- ・アグリビジネス拡大への取組み
- ・再生可能エネルギー発電事業への取組み
- ・地方公共団体との連携強化
- ・ 地域企業の事業承継支援
- ・金融円滑化への継続対応
- ・企業再生支援への取組み

### 中小企業の経営支援に関する態勢整備の状況

当行では、行内外のネットワークや外部専門機関などを活用し、営業店と本部が一体となって、お取引先企業の経営支援に取り組んでおります。

### 秋田銀行 業務提携・協定 ○産業振興・地域活性化に向けた包括的業務 営業店 協定 ○海外取引・海外進出・国際業務に関する業 情報共有・連携 ○農業・アグリビジネスによる地域振興に関 する協定 本部 ○地域振興を目的とした連携協定 他 連携 地域サポート部 外部機関 アグリビジネス推進室(地域サポート部) ○地方公共団体 ○商工会議所 ○秋田県信用保証協会 東京ビジネスサポートセンター(地域サポート部) ○中小企業再生支援協議会 他 外部専門家 海外ビジネスサポート室(証券国際部) ○税理十 ○経営コンサルタント 企業経営支援室(審査部) ○公認会計士 ○弁護士 他

### 中小企業の経営支援に関する取組状況

### (1) 事業性評価を重視した融資への取組状況

### ◎事業性評価を重視した融資への取組方針

当行では、お取引先企業への融資に際しては、担保や保証に必要以上に依存することなく、事業内容や成長可能性などを適切に評価して対応しております。また、こうした事業性評価を踏まえた解決策のご提案や、その実行を支援するための取組みについても強化しております。

そのためには、各業種における外部環境が企業に与える影響や、お取引先企業における独自の商品・技術力などの強み・弱みを分析のうえ、当該企業の将来性を評価するために必要な情報をこれまで以上に蓄積していく必要があることから、事業性評価に必要な行員の「目利き能力」を向上していくとともに、お客様との深度ある対話に努めていく方針です。

### ◎事業性評価を重視した融資を推進していくための態勢整備

本部組織による営業店支援体制の強化として、専門分野に精通した担当者を地域サポート部や審査部に配置し、お客様のライフステージに応じた経営課題等に対する提案活動を行える態勢整備に努めているほか、地域活性化支援や経営コンサルティングを行う(株)あきぎんリサーチ&コンサルティングの機能を活用したソリューション提案にも取り組んでおります。さらに、(株)あきぎんリサーチ&コンサルティングには外部招聘した業務アドバイザーが在籍しており、「創業・ベンチャー支援、海外取引支援」や「製造業に対する工程や生産効率の改善」等のプロフェッショナルとして個別企業を訪問し、製造ラインの改善支援等、より実践的な支援活動を行っております。

行員の「目利き能力」向上策としては、外部講師による業種別の事業性評価セミナーや、業種別の基礎知識習得やコンサルティング能力向上を目的とした「医療・介護研修会」および「アグリビジネス研修会」を定期開催し、全体的なスキルの引上げに取り組んでおります。

また、目利きのエキスパート養成の観点から、メガバンク、㈱地域経済活性化支援機構、大手シンクタンク等に行員4名を出向させ、産業調査、企業分析、再生支援等のノウハウを吸収させております。

### (2) 創業・新規事業開拓の支援

### ◎業務アドバイザーによるコンサルティング体制の構築

創業や新規事業進出を検討されるお取引先に対し、「事業性評価を重視した融資への取組状況」でも説明した業務アドバイザーを活用し、専門的なコンサルティングを実施する体制を構築しております。また、創業に対する行員のスキルアップを目的に県内各地で開催される「創業塾」に積極的に参加しております。平成27年上半期の創業・新事業進出に関する融資商品・制度の新規取扱実績は27件、1億20百万円となっております。

### ◎資金支援

「あきた地域活性化支援ファンド 2号」を活用した新ビジネス創出支援のほか、平成27年8月にクラウドファンディング事業者であるミュージックセキュリティーズ㈱、㈱秋田魁新報社と共同で購入型クラウドファンディングサービス「FAN AKITA」を創設し、小口資金の投資スキームを活用した創業支援にも注力しており、平成27年11月末時点で4件の案件が成立しております。また、女性起業家を資金面で支援するための融資制度である「Bizこまち」に関しては、平成27年11月末時点で累計29件、96百万円の取扱実績となっております。

### (3) 成長段階における支援

### ◎販路拡大支援

### ●ビジネスマッチングの提供

お取引先のビジネスチャンス拡大をはかるため、当行のネットワークのほか北東北三行共同ビジネスネット(当行、㈱青森銀行、㈱岩手銀行)のネットワークを活用したビジネスマッチングに取り組んでおります。平成27年度は9月に大和証券㈱と共催で東京にて「Netbix商談会with大和証券」を開催し17社の県内企業が参加しております。また、東京ビジネスサポートセンターを介し、首都圏企業や大手流通業者などとの商談をセッティングし、お取引先の販路拡大に努めております。平成27年度上半期のビジネスマッチングの提供件数は154件、成約件数は46件となりました。

### ●うまいもんプロデューサーの提供

ニフティ㈱および㈱電通との共同事業により、インターネットユーザーの意見やアイデアを「地域特産品の開発」に活用するサービス「うまいもんプロデューサー」を提供しております。サービス提供開始後18社のお取引先に活用いただき、うち4件のプロジェクトが商品開発を完了しております。また、この「うまいもんプロデューサー」のサイトに、平成28年3月までの期間限定で秋田県産品紹介サイト「知る人ぞ知る『秋田のうまいもん』大集合」を開設し、県内企業10社の名物商品の良さを全国にPRしています。

### ●ネット利活用による販路拡大支援

平成27年12月、お取引先のインターネット活用による販売力強化を支援するため、グーグル㈱、ヤフー ㈱など、日本のネット業界を牽引する多くの企業が入会している「中小・地方・成長産業のためのネット 利活用による販路開拓協議会」と共催で「『ネット利活用による売上増加・販路開拓』支援セミナー」を開 催し、約70名の皆さまに参加いただいております。

### ◎海外取引支援

お取引先の海外取引支援に向け、海外ビジネスサポート室によるコンサルティング活動を行っております。 平成27年度上半期は30先に対して輸出入決済や海外進出に関するコンサルティングを行っております。

また、国内外の15の金融機関、政府機関等と提携し、海外事情セミナー、海外商談会、海外ミッション等を連携して開催しております。平成27年11月には「台湾企業との個別商談会&交流会in秋田」を開催し、電機電子部品、資源リサイクル産業分野を中心とした産業連携セミナー、商談会を実施しました。

### ◎人材に関する支援

平成26年に業務提携した人材紹介会社ヒューレックス㈱を活用し、企業の専門人材の確保を支援しております。平成27年度上半期に県内企業で1号案件が成立しました。

### ○ABL (動産担保融資) への取組み

お取引先企業の事業価値に着目した融資の一環として、原材料・商品在庫をはじめとしたABL(動産担保融資)への取組みを強化し、お取引先の資金調達手段の多様化に努めております。

平成27年9月末時点でのABL活用先は27先、融資枠は12億96百万円となっております。

### ◎経営革新等支援機関(認定支援機関)としての取組み

(㈱あきぎんリサーチ&コンサルティングに在籍する業務アドバイザーとともに「新ものづくり補助金」を活用したお取引先の事業拡大、新事業進出支援を実施しております。「新ものづくり補助金」の採択においては、平成26年度は、秋田県での採択127件中64件、平成27年度上半期は採択96件中44件が当行申請分となっております。

### ○「経営者保証に関するガイドライン」への対応状況

○「経営者保証に関するガイドライン」(以下、「ガイドライン」といいます。)への対応方針 当行では、経営者保証に関するガイドライン研究会が公表した「経営者保証に関するガイドライン」 (注) を尊重するとともに、遵守するための態勢を整備して対応しております。

当行のガイドラインへの対応方針は以下のとおりです。

- ・当行は、ガイドラインを尊重し、遵守するための行内の態勢を整備するとともに、営業店の行員に対しても、ガイドラインの趣旨や当行の対応方針等を周知徹底し、お客様からのご相談に真摯に対応してまいります。
- ・当行は、お客様の経営状況等を勘案し、お客様の意向も踏まえたうえで、経営者保証を求めない対応 を検討いたします。
- ・当行は、お客様から申し出があれば、既にご契約した保証契約についても見直しを検討します。
- ・当行は、やむを得ず保証履行を求める場合には、お客様の資産状況を勘案したうえで履行請求の範囲 を検討いたします。
- ○ガイドラインの活用状況

平成27年度上半期のガイドラインの活用状況は以下のとおりです。

(単位:件)

新規に無保証で融資した件数(ABL活用分を除く。)(A)	801
経営者保証の代替的な融資手法として、ABLを活用した件数(B)	1
保証契約を変更した件数	39
保証契約を解除した件数	185
新規融資件数(C)	5,316
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合 (A+B)/C	15.09%

### ※中小企業のみを対象

(注)「経営者保証に関するガイドライン」とは、経営者保証(中小企業の経営者などによる個人保証)において、合理性が認められる保証契約の在り方等を示すとともに、主たる債務の整理局面における保証債務の整理を公正かつ迅速に行うためのルールとして、平成25年12月5日に経営者保証に関するガイドライン研究会(全国銀行協会および日本商工会議所が事務局)が公表したものです。詳細は、全国銀行協会および日本商工会議所のホームページでご覧いただくようお願いします。

### (4) 経営改善・事業再生・業種転換等の支援

### ◎金融円滑化への取組み

当行では、中小企業金融円滑化法の施行以降、「金融円滑化に関する当行の方針」を制定するとともに、行内の体制整備を進め、お客様からのお借入および返済条件の変更等にかかるご相談に積極的に取り組んでまいりました。同法の終了以降も従来に引き続き、お客様からのご相談等に対し、適切かつ迅速に対応するよう努めております。

また、返済条件を変更されたお取引先に対する、経営改善計画の策定支援につきましても継続して取り組んでおります。さらには、3か月ごとに計画の進捗状況を確認するなど、計画実行のフォロー・サポート等を積極的に実施しております。

### ◎経営改善支援への取組み

経営課題の認識共有など、お取引先とのリレーションシップの強化をはかりながら、経営改善支援に積極的に取り組んでおります。各営業店が、それぞれのお取引先の経営改善コンサルティングに取り組む全行運動を継続実施しており、経営改善計画の策定のサポートや計画達成に向けたフォロー活動を推進しております。

平成27年度上半期の債務者区分のランクアップ先数は、15先となっております。

### 【平成27年4月~27年9月】

(単位:先数)

		期初債務者数 A	うち 経営改善支援 取組み先 α	αのうち 平成27年度中 に債務者区分 がランクアッ プした先数 β	αのうち 平成27年度中 に債務者区分 が変化しなか った先 γ	$\alpha$ のうち 再生計画を策 定した先数 $\delta$	経営改善支援 取組み率 = α/A
	正常先 ①	8,999	5		5	3	0.1%
要注	うちその他要注意先 ②	2,869	178	10	168	154	6.2%
要注意先	うち要管理先 ③	13	0	0	0	0	_
	破綻懸念先 ④	803	45	5	40	34	5.6%
	実質破綻先 ⑤	188	9	0	9	3	4.8%
	破綻先 ⑥	42	1	0	1	0	2.4%
	小 計 (2~6の計)	3,915	233	15	218	191	6.0%
	合 計	12,914	238	15	223	194	1.8%

※ 平成27年度中に新たに取引を開始した取引先については、本表に含みません。

### ◎事業再生支援への取組み

事業再生については、各営業店と審査部内の「企業経営支援室」が連携のうえ、お取引先と協力しながら取り組んでおり、必要に応じて中小企業再生支援協議会等の外部機関を活用することにより、再生の実現性を高めております。

平成27年度上半期は、当行主導もしくは当行メイン分として、18先について中小企業再生支援協議会へ相談を持ち込み、うち3先で同意成立いたしました。

### ●ルネッサンスキャピタル㈱と事業再生に関する業務協力協定を締結

平成25年11月、当行を含む秋田県内の5金融機関および秋田県信用保証協会と共同で、全国各地で豊富な事業再生の実績を有するルネッサンスキャピタル㈱と業務協力協定を締結しております。

当行では、本業務協力協定およびファンドへの出資を通じて、県内金融機関や同機構などの官民の連携を一層強化し、お取引先の事業再生支援において従来以上にコンサルティング機能を発揮してまいります。

### ◎事業承継支援への取組み

「あきた地域活性化支援ファンド2号」の活用や事業引継ぎ支援センターとの連携による後継者への事業引継ぎ支援、ならびにM&A仲介による事業継続支援に取り組んでおります。

平成26年度の事業承継・M&A提案実績は61件、平成27年度上半期は35件となりました。

### 地域の活性化に関する取組状況

### (1) 地域産業の活性化

### ◎地方創生への取組み

### ○(株)あきぎんリサーチ&コンサルティングの活動

地域活性化支援や経営コンサルティングを主な業務内容として、平成27年6月に「㈱あきぎんリサーチ&コンサルティング」を設立いたしました。当行内の「『あきた』創生推進サポートチーム」と連携した県内自治体の地方版総合戦略策定支援や、当行地域サポート部と連携した事業承継・M&A、医療・介護分野での専門性の高いコンサルティングサービスを提供しております。

### ○若手経営者・後継者向け経営塾「あきた未来塾」の取組み

今後の秋田県経済の発展に寄与する人材の育成を目的に、若手経営者・後継者を対象とした経営塾「あきた未来塾」を平成23年度より開講しており、開講以来4期目で卒業生は49名となりました。平成27年10月には、「あきた未来塾」の卒業生が中心となり、「全国若手ものづくりシンポジウム」が秋田市で開催されました。

### ○自治体との連携

### ●子育て支援ならびに定住促進に関する連携

県内12自治体と、子育で支援と定住人口の確保に向けた「子育で支援ならびに定住促進に関する協定」を締結しております。平成27年4月には一部の自治体の利子補給制度と連携した「《自治体連携》『子育で世帯応援ローン』」の取扱いを開始しております。

### ●結婚支援に関する連携

結婚支援として、大館市に対して「あきぎん生活応援ローン〈ブライダルコース〉」と連携した市の全額利子補給制度、「大館市ブライダル資金利子補給助成制度」の創設に協力しております。

### ●空き家問題に対する連携

空き家の所有者および入居者自身が利用できるよう、全国で初めてとなる所有者と借主の双方が利用できる「空き家リフォームローン」を平成27年8月から取扱いしております。また、五城目町とは、本ローンを活用した空き家利活用策として、五城目町が移住希望者や空き家所有者に全額利子補給する制度を創設し、9月に「空き家利活用等に関する地方創生連携協定」を締結しております。

平成26年6月に取扱いを開始した「空き家解体ローン」は、県内14自治体と補助金を活用した金利優遇などの活用促進に取り組んだ結果、平成27年11月末時点の利用実績は24件となっています。

### ◎成長分野への取組み

### ○アグリビジネス分野への取組み

平成25年12月に設立した「あきたアグリビジネス研究会」の会員数は172先となっております。平成25年1月から「アグリブリッジフォーラム」を毎年開催しており、会員農業生産者の事業規模拡大や6次産業化を支援しております。

### ○再生可能エネルギー分野への取組み

太陽光発電・風力発電事業を中心に案件組成支援、融資支援等に積極的に取り組んでいます。平成26年 11月に送電網の整備・貸与を目的に設立された「秋田送電㈱」に出資参加したほか、将来的な洋上風力発 電事業を見据えたインフラ整備を視野に入れた取組みを行っております。

### ○医療・介護分野への取組み

高齢化先進県の秋田県では、医療・介護分野の重要性がますます高まることが予想されております。これに対応するため、㈱あきぎんリサーチ&コンサルティングの医療・介護分野におけるコンサルティング能力を高め、お取引先医療機関へのアドバイス機能を充実させております。

### ○航空機産業への取組み

平成27年11月、成長産業として注目されている航空機産業への秋田県内企業の参入促進を目的に「航空機産業セミナーin潟上【航空機産業の未来】」を開催いたしました。秋田県内企業が有する技術の同分野での活用を促進し、地場産業の発展に寄与してまいります。

### (2) 地域社会の活性化

### ◎秋田プラチナタウン研究会の運営

平成26年8月に設立しました「秋田プラチナタウン研究会」(会員80先)では、高齢者が健康で元気に輝き暮らし続けることのできるコミュニティ「秋田版CCRC」の構築に向けて議論を進めております。本研究会では、ハード面の整備のみならず、健康寿命の延伸、多世代共存・協働および経験・ノウハウを活用した産業の活性化を模索することにより、持続可能な地域づくりを展開してまいります。

### ◎「あきぎんエイジフレンドリーバンク宣言―長活きする秋田へ―」に関する取組み

年齢を重ねても活き活きと元気に生きることを目指す「長活(ながい)き」をコンセプトに「あきぎんエイジフレンドリーバンク宣言-長活きする秋田へ-」を制定し、シニアの皆さまの「長活き」を応援する銀行を目指しております。

その一環として、「学びたい」という気持ちが「長活き」の秘訣につながるという考えのもと、「あきぎん長活き学校」を平成28年4月に開校する予定としており、平成27年11月には開校に先立ち、プレ開校式を開催いたしました。

また、シニアの皆さまに安心してご利用いただける環境づくりを目指し、行員の認知症サポーターの養成に取り組んでおり、平成27年12月末時点で724名が認定されています。

## 平成27年度中間決算の概要

### 営業の概況(連結)

### 金融経済環境

当中間連結会計期間の国内経済は、中国をはじめとする新興国経済の減速の影響から輸出や生産面が弱含みで推移しましたが、個人消費は底堅く、住宅投資は持ち直しの動きが続くなど、景気は緩やかな回復基調が続きました。需要面では、経済対策による公共投資が高水準で推移したほか、住宅投資も消費税増税前の駆け込み需要の反動減が一巡し、持ち直しの動きが続きました。また、設備投資は企業収益の改善を背景に増加基調を保ちました。この間、雇用・所得環境は改善の動きが続きました。

県内経済は、個人消費が底堅く推移したものの、企業の生産活動には弱さがみられ、景気の緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられました。産業別の動向では、主力の電子部品・デバイスは、スマートフォン関連需要の鈍化により弱含みとなったほか、機械金属、木材も弱い動きが続きました。需要面では、公共工事が減少傾向で推移したほか、住宅着工も持ち直しの動きがやや弱まりました。商況については、自動車販売が軽自動車を中心に落ち込んだものの、大型小売店販売は堅調に推移し、総じて底堅い動きとなりました。

金融面では、日本銀行による「量的・質的金融緩和」の継続等により、短期金利は0.1%を下回る水準で安定的に推移しました。長期金利は、新発10年物国債利回りが概ね0.5%を下回る水準での推移となりました。一方、日経平均株価は、国内経済の回復期待を背景に一時、約15年ぶりとなる20,000円台を回復する場面もみられましたが、中国経済の減速にともなう世界経済の先行き不透明感が懸念されたため、18,000円近傍での推移となりました。また、為替相場は、日本銀行の大規模な金融緩和が継続するとの見方に対して、米国は金融緩和政策の出口に向かうなど、日米の金融政策スタンスの違いが意識され、1ドル=125円台まで下落する場面がありました。

### 預金・譲渡性預金

個人預金、法人預金の増加により、前連結会計年 度末比5億円増加し2兆5,546億円となりました。

### 貸出金

事業先向け貸出金や個人ローンの増加により、前連結会計年度末比282億円増加し1兆5,735億円となりました。

### 有価証券

前連結会計年度末比7億円減少し、1兆271億円 となりました。

### 損益

経常収益は、資金運用収益の増加により前中間連結会計期間比1億2千5百万円増加し、242億6千3百万円となりました。また、経常費用は、減価償却費などの営業経費が減少したため、前中間連結会計期間比1億1千6百万円減少し186億6千3百万円となりました。

この結果、経常利益は前中間連結会計期間比2億4千万円増加し55億9千9百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は前中間連結会計期間比1億3百万円増加し36億2百万円となりました。

主要な経営指標等の推移〔連結〕									
	平成25年度 中間連結会計期間	平成26年度 中間連結会計期間	平成27年度 中間連結会計期間	平成25年度	平成26年度				
	(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)				
連結経常収益	24,022百万円	24,138百万円	24,263百万円	45,127百万円	48,061百万円				
連結経常利益	6,024百万円	5,359百万円	5,599百万円	9,826百万円	11,645百万円				
親会社株主に帰属する中間純利益	3,359百万円	3,499百万円	3,602百万円	_	_				
親会社株主に帰属する当期純利益	_	_	_	6,699百万円	6,916百万円				
連結中間包括利益	3,550百万円	10,219百万円	△1,779百万円	_	_				
連結包括利益	_	_	_	7,522百万円	25,059百万円				
連結純資産額	149,673百万円	160,057百万円	171,395百万円	150,788百万円	174,444百万円				
連結総資産額	2,680,457百万円	2,855,174百万円	2,935,899百万円	2,772,671百万円	2,883,621百万円				
1 株当たり純資産額	771.97 <sub>円</sub>	836.50ฅ	905.65ฅ	775.73 <sub>円</sub>	912.36⋳				
1 株当たり中間純利益金額	17.78 <sub>円</sub>	18.77 <sub>円</sub>	19.50⋳	_	_				
1 株当たり当期純利益金額	_	_	_	35.64⋳	37.27ฅ				
潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額	17.76 <sub>円</sub>	18.75⋳	19.48円	_	_				
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	_	_	_	35.60⋳	37.22ฅ				
連結自己資本比率(国内基準)	12.50%	11.92%	11.89%	12.08%	11.96%				
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,711百万円	6,683百万円	△36,974百万円	106,305百万円	103,865百万円				
投資活動によるキャッシュ・フロー	△115,663亩万円	△29,398百万円	△9,892百万円	△129,989亩万円	△3,077百万円				
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,279亩万円	△1,346亩万円	△1,225亩万円	△1,736亩万円	△1,800百万円				
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	64,425百万円	93,179百万円	168,140百万円	117,238百万円	216,233百万円				
<b>従業員数[外、平均臨時従業員数]</b>	1,547人 [678人]	1,528人 [712人]	1,499人 [748人]	1,495人 [687人]	<b>1,479</b> 人 [713人]				

- (注) 1. 従業員数は、取締役を兼務していない執行役員を含んでおります。
  - 2.「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当中間連結会計期間より、「連結中間 (当期) 純利益」を「親会社株主に帰属する中間 (当期) 純利益」としております。
  - 3. 連結自己資本比率(国内基準)は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しておりますが、新基準(バーゼル皿)に対応するために算式が変更されたことから、平成26年3月末以後における連結自己資本比率は、変更後の算式に基づき算出しております。

### 中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

コールローン及び買入手形

現金預け金

買入金銭債権

商品有価証券

金銭の信託

有価証券貸出金

外国為替

その他資産

有形固定資産

無形固定資産

操延税金資産 支払承諾見返

貸倒引当金 投資損失引当金

資産の部合計

譲渡性預金

預金

借用金

外国為替

その他負債

役員當与引当金

偶発損失引当金

非支配株主持分

純資産の部合計

負債及び純資産の部合計

退職給付に係る負債

役員退職慰労引当金

睡眠預金払戻損失引当金

負債の部

コールマネー及び売渡手形

債券貸借取引受入担保金

退職給付に係る資産

資産の部

当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前中間連結会計年度及び当中間連結会計年度の中間連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査証明を受けております。

ただし、前中間連結会計期間末(平成26年9月30日)の中間連結貸借対照表は、表示方法の変更にともない表示科目の組替えを行っており、組替え後の前中間連結会計期間末(平成26年9月30日)の中間連結貸借対照表については中間監査を受けておりません。

(単位:百万円)

175,762

100,699

13,708

1,112

1,464

23,717

21,061

1,557

4.967

8,263

△17,224

2,935,899

2,352,424

202,183

17,754

101,597

43,915

16,899

7,973

63

10

20 536

497

5.834

171,395

2,935,899

142

 $\triangle$ 0

特別損失

固定資産処分損

税金等調整前中間純利益

法人税、住民税及び事業税

非支配株主に帰属する中間純利益

減損損失

法人税等調整額

法人税等合計

中間純利益

1,027,126

1,573,542

前中間連結会計期間末出中間連結会計期間末

(平成26年9月30日) (平成27年9月30日)

117,007

107,073

14,232

225

850

19,522

21,594

1.779

2.096

8.307

△19,218

2,855,174

2,293,055

212,155

25,866

96,042

20,716

19,297

7,865

188

10

25

510 508

207

 $\triangle$ 0

1.061

1,037,647

1,542,785

		(単位・日万円)
中間連結損益計算書		
	前中間連結会計期間 (平成26年4月1日から (平成26年9月30日まで)	当中間連結会計期間 (平成27年4月1日から) (平成27年9月30日まで)
経常収益	24,138	24,263
資金運用収益	15,352	15,927
(うち貸出金利息)	( 9,962)	( 9,569)
(うち有価証券利息配当金)	( 5,146)	( 6,009)
役務取引等収益 	3,387	3,440
その他業務収益	2,705	3,632
その他経常収益	2,693	1,262
経常費用	18,779	18,663
資金調達費用	1,143	1,504
(うち預金利息)	( 634)	( 699)
役務取引等費用	1,029	1,095
その他業務費用	2,921	3,424
営業経費	13,344	12,178
その他経常費用	341	460
経常利益	5,359	5,599
特別利益	0	6
固定資産処分益	0	6

41

27

14

5,317

890

840

1.730

3,587

3.499

87

親会社株主に帰属する中間純利益 (注)中間連結損益計算書の注記はP14に掲載しています。

(単位	:	百万円

40

34

5,565

1,413

1.840

3,724

3.602

121

426

6

(単位:百万円)

### 中間連結包括利益計算書 前中間連結会計期間 当中間連結会計期間 (平成26年4月1日から) 平成26年9月30日まで) (平成27年4月1日から) 平成27年9月30日まで) 中間純利益 3,587 3,724 その他の包括利益 6,631 △5,504 その他有価証券評価差額金 6,591 △5,684 繰延ヘッジ損益 △201 41 退職給付に係る調整額 241 139 中間包括利益 10,219 △1,779 (内訳) 親会社株主に係る中間包括利益 10,126 △1,910 非支配株主に係る中間包括利益 92 131

繰延税金負債	8,568	10,590
再評価に係る繰延税金負債	1,995	1,775
支払承諾	8,307	8,263
負債の部合計	2,695,116	2,764,504
純資産の部		
	14,100	14,100
資本剰余金	6,271	6,345
利益剰余金	105,202	111,193
自己株式	△661	△1,309
 株主資本合計	124,912	130,329
その他有価証券評価差額金	29,473	35,108
繰延ヘッジ損益	△814	△2,072
土地再評価差額金	2,926	3,060
退職給付に係る調整累計額	△2,158	△922
その他の包括利益累計額合計	29,427	35,174
	62	57

5.655

160,057

2,855,174

<sup>(</sup>注) 1. 中間連結貸借対照表の注記はP14に掲載しています。

<sup>2. 「</sup>会計方針の変更」(P14) に記載のとおり、少数株主持分から非支配株主持分への表示の 変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前中間連結会計期間末について は、中間連結貸借対照表の組替えを行い、「少数株主持分」を「非支配株主持分」と表示し ております。

### 中間連結株主資本等変動計算書

### 前中間連結会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

			株主資本		
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	14,100	6,291	103,895	△1,921	122,367
会計方針の変更による 累積的影響額			381		381
会計方針の変更を反映した 当期首残高	14,100	6,291	104,277	△1,921	122,748
当中間期変動額					
剰余金の配当			△561		△561
親会社株主に帰属する 中間純利益			3,499		3,499
自己株式の取得				△880	△880
自己株式の処分		15		90	105
自己株式の消却		△35	△2,013	2,049	<del>-</del> -
土地再評価差額金の取崩			0		0
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	_	△20	925	1,259	2,164
当中間期末残高	14,100	6,271	105,202	△661	124,912

		その他の包括利益累計額						
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計	新株予約権	非支配株主 持分	純資産合計
当期首残高	22,886	△612	2,926	△2,399	22,801	48	5,571	150,788
会計方針の変更による 累積的影響額								381
会計方針の変更を反映した 当期首残高	22,886	△612	2,926	△2,399	22,801	48	5,571	151,169
当中間期変動額								
剰余金の配当								△561
親会社株主に帰属する 中間純利益								3,499
自己株式の取得								△880
自己株式の処分								105
自己株式の消却								<del>-</del>
土地再評価差額金の取崩								0
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	6,586	△201	△0	241	6,626	13	84	6,724
当中間期変動額合計	6,586	△201	△0	241	6,626	13	84	8,888
当中間期末残高	29,473	△814	2,926	△2,158	29,427	62	5,655	160,057

### 当中間連結会計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

		株主資本							
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
当期首残高	14,100	6,271	108,129	△593	127,909				
当中間期変動額									
剰余金の配当			△554		△554				
親会社株主に帰属する 中間純利益			3,602		3,602				
自己株式の取得				△857	△857				
自己株式の処分		73		140	214				
土地再評価差額金の取崩			14		14				
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)									
当中間期変動額合計	_	73	3,063	△716	2,420				
当中間期末残高	14,100	6,345	111,193	△1,309	130,329				

		その他の包括利益累計額						
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計	新株予約権	非支配株主   持分	純資産合計
当期首残高	40,802	△2,113	3,075	△1,061	40,702	62	5,770	174,444
当中間期変動額								
剰余金の配当								△554
親会社株主に帰属する 中間純利益								3,602
自己株式の取得								△857
自己株式の処分								214
土地再評価差額金の取崩								14
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	△5,694	41	△14	139	△5,528	△5	63	△5,469
当中間期変動額合計	△5,694	41	△14	139	△5,528	△5	63	△3,048
当中間期末残高	35,108	△2,072	3,060	△922	35,174	57	5,834	171,395

<sup>(</sup>注) 中間連結株主資本等変動計算書の注記はP15に掲載しています。

### 中間連結キャッシュ・フロー計算書

	前中間連結会計期間 (平成26年4月1日から) 平成26年9月30日まで)	当中間連結会計期間
	[ + \\\ 20\tau \\ 7 \\ 7 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\	(平成27年4月1日から)
	(平成26年9月30日まで)	(平成27年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	5,317	5,565
減価償却費	943	760
減損損失	14	34
貸倒引当金の増減(△)	△2,526	△773
投資損失引当金の増減額(△は減少)	△1	△0
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△10	△10
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	6	50
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△2	△5
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	△71	△48
偶発損失引当金の増減(△)	△53	△66
資金運用収益	△15,352	△15,927
資金調達費用	1,143	1,504
有価証券関係損益(△)	△140	△29
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	△51	37
為替差損益 (△は益)	68	△240
固定資産処分損益(△は益)	26	△0
貸出金の純増(△)減	△50,809	△28,296
預金の純増減(△)	△68,083	△84,368
譲渡性預金の純増減(△)	83,995	84,859
借用金(劣後特約付借入金を 除く)の純増減(△)	2,390	17,717
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減	7,148	9,191
コールローン等の純増(△)減	△23,912	△75,978
コールマネー等の純増減(△)	14,062	1,050
債券貸借取引受入担保金の純増減 (△)	27,989	36,712
外国為替(資産)の純増(△)減	65	1,772
外国為替(負債)の純増減(△)	93	29
資金運用による収入	15,712	16,113
資金調達による支出	△688	△956
商品有価証券の純増(△)減	△210	5
その他	9,933	△3,966
小計	6,997	△35,263
法人税等の支払額	△314	△1,710
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,683	△36,974

	前中間連結会計期間 (平成26年4月1日から (平成26年9月30日まで)	当中間連結会計期間 (平成27年4月1日から) 平成27年9月30日まで)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△219,034	△148,881
有価証券の売却による収入	119,367	57,075
有価証券の償還による収入	72,553	83,582
金銭の信託の増加による支出	△998	△1,141
有形固定資産の取得による支出	△544	△511
有形固定資産の売却による収入	28	55
無形固定資産の取得による支出	△769	△71
無形固定資産の売却による収入	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△29,398	△9,892
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△561	△554
非支配株主への配当金の支払額	△8	△9
自己株式の取得による支出	△880	△857
自己株式の売却による収入	103	195
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,346	△1,225
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△24,059	△48,092
現金及び現金同等物の期首残高	117,238	216,233
現金及び現金同等物の中間期末残高	93,179	168,140

<sup>(</sup>注) 中間連結キャッシュ・フロー計算書の注記はP15に掲載しています。

### 注記事項(当中間連結会計期間)

### (中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社 5社

会社名

株式会社 あきぎんリサーチ&コンサルティング

株式会社 秋田保証サービス

株式会社 秋田グランドリース 株式会社 秋田ジェーシービーカード

株式会社 秋田国際カード

なお、株式会社あきぎんリサーチ&コンサルティングは、設立により当中 間連結会計期間から連結しております。 また、株式会社秋銀ビジネスサービスは、清算により除外しております。 (2) 非連結子会社 1社

会社名

投資事業有限責任組合あきた地域活性化支援ファンド2号

非連結子会社は、その資産、経常収益、中間純損益(持分に見合う額)、利 益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額) 等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関 する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除 外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の非連結子会社

該当事項はありません。

持分法適用の関連会社

該当事項はありません。

持分法非適用の非連結子会社 1社

会社名

投資事業有限責任組合あきた地域活性化支援ファンド2号

持分法非適用の非連結子会社は、中間純損益(持分に見合う額)、利益剰余 金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等か らみて、持分法の対象から除いても中間連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

(4) 持分法非適用の関連会社

該当事項はありません。

### 3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。 9月末日 5社

### 4. 開示対象特別目的会社に関する事項

(1) 開示対象特別目的会社の概要及び開示対象特別目的会社を利用した取引の概

該当事項はありません

(2) 開示対象特別目的会社との取引金額等 該当事項はありません。

### 5. 会計方針に関する事項

(1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法 (売却原価は移動平均法により算定) により 行っております

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却 原価法(定額法)、その他有価証券については原則として中間連結決算日の市 場価格等に基づく時価法 (売却原価は移動平均法により算定)、ただし時価を 把握することが極めて困難と認められるものについては、移動平均法による 原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処 理しております。

(ロ) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産とし て運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

(3) デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。 デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

(4) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産 (リース資産を除く)

当行の有形固定資産は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。)については定額法)を採用し、年間減価償却 費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物:3年~50年 その他:3年~20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主 として定率法により償却しております。

② 無形固定資産 (リース資産を除く) 無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフ ウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間(主として 5年)に基づいて償却しております。

③ リース資産

・ ウー ヘ 見性 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無 形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により 償却しております。

(5) 貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関 する実務指針」(日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 平成24 年7月4日)に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権について 一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出 は、一定の種類毎に分類し、過去の一定期间におりる音々の負債実績から昇出 した貸倒実績率等に基づき計上しております。破綻懸念先債権に相当する債権 については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額 を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及 び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見 込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

なお、破綻懸念先債権のうち担保等による保全額を控除した金額が一定額以 上である債権及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で与信額が一定額以上の 大口債務者への債権のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッ シュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシ ュ・フローを当初の約定利子率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸

倒引当金とする方法 (キャッシュ・フロー見積法) により計上しております。 すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署の協力の下に 資産査定部署が資産査定を実施しております。 連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案

して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可 能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。 ) 投資損失引当金の計上基準

投資損失引当金は、投資に対する損失に備えるため、有価証券の発行会社の 財政状態等を勘案して必要と認められる額を計上しております。

(7) 役員賞与引当金の計上基準

役員賞与引当金は、役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与 の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。

(8) 役員退職慰労引当金の計上基準

連結子会社の役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備える ため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当中間連結会計期間末ま でに発生していると認められる額を計上しております。

(9) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止し利益計上を行った睡眠預金の 払戻請求に備えるため、必要と認められる額を計上しております。

(10) 偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、信用保証協会に対する責任共有制度に基づく負担金の支 払いに備えるため、過去の実績に基づき、将来の支払見込額を計上しておりま

(II) 退職給付に係る会計処理の方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末まで の期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。ません 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内 の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連

結会計年度から損益処理しております。 なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職 給付に係る当中間連結会計期間末の自己都合要支給額を退職給付債務とする方 法を用いた簡便法を適用しております。

(12) 外貨建の資産及び負債の木邦通貨への換算基準

外貨建資産及び負債は、中間連結決算日の為替相場による円換算額を付して おります。

リース取引の処理方法

(貸手側)

リース取引開始日が「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 ・ スポリルロイン - スポリルロイン - スポリース スポータ スポータ スポータ アイナンス・リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用 指針第16号同前)第81項に基づき、同会計基準適用初年度の前連結会計年度末 における固定資産の適正な帳簿価額(減価償却累計額控除後)をリース投資資 産の期首の価額として計上しております。

(14) 重要なヘッジ会計の方法

(イ) 金利リスク・ヘッジ

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、 「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」 (日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日) に規 定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、 相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる有価証券・貸出金と ヘッジ手段である金利スワップ取引を特定し評価しております。

(ロ) 為替変動リスク・ヘッジ

当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会 計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監 査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年

7月29日)に規定する繰延ヘッジによっております。 ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッ ジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の 外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性 を評価しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連結貸借対 照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。 (16) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

### (会計方針の変更)

(「企業結合に関する会計基準 | 等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準)で、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準 第22号 平成25年9月13日。以下、「連結会計基準」という。) 及び「事業分離等 常となっています。 気をはいる 大学 では、 19月13日 ・ 以り、 「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日 ・ 以り、 「事業分離等会計基準」という。)等を、当中間連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当行の持分変動による差額を資本剰余金として計上する とともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変 更しております。また、当中間連結会計期間の期首以後実施される企業結合につ いては、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合目 の属する中間連結会計期間の中間連結財務諸表に反映させる方法に変更いたしま す。加えて、中間純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分へ の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前中間連結 会計期間については、中間連結財務諸表の組替えを行っております。 当中間連結会計期間の中間連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範

囲の変動を伴わない子会社株式の取得または売却に係るキャッシュ・フローにつ 団の変動を伴わない丁云れ休式の取得または元却に除るイヤックェ・プローにすいては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得または売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会 計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱い に従っており、当中間連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しており ます。

なお、当中間連結会計期間において、中間連結財務諸表に与える影響額はあり

### (追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当行は、従業員への福利厚生を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社 の株式を交付する取引を行っております。

(1) 取引の概要

当行は、平成23年3月22日開催の取締役会決議に基づき、当行従業員持株会を活用し、福利厚生の拡充を目的としたインセンティブ・プランとして「従業員持株会信託型ESOP」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

本制度は、「秋田銀行職員持株会」(以下、「持株会」) に加入するすべての従 業員を対象とするインセンティブ・プランです。

本制度では、当行が持株会に加入する従業員のうち一定の要件を充足する者 を受益者とする信託(以下、「持株会信託」)を設定し、持株会信託は持株会が 平成27年6月までの4年間にわたり持株会が取得すると見込まれる数の当行株 式を予め取得します。

その後、持株会信託は持株会の株式取得に際して当該株式を売却していきま す。持株会に対する当行株式の売却を通じて売却益相当額が累積した場合には、 これを残余財産として受益者要件を充足する従業員に対して分配します。

なお、当行は、持株会信託が当行株式を取得するための借入に対して補償を 行うため、当行株価の下落により、持株会情託が借入債務を完済できなかった 場合には、当行が借入先銀行に対して残存債務を弁済することになります。

(2) 信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する会計処理

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)第20項を適用し、従来採用し ていた方法を継続しております。

(3) 信託が保有する自社の株式に関する事項

信託が保有する当行株式の期中平均株式数は、当中間連結会計期間222千株であり、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

なお、当中間連結会計期間末において、信託が保有する当行株式はありませ

(4) 信託の借入金に関する事項

当中間連結会計期間末において、信託の借入金はありません。

### (中間連結貸借対照表関係)

1. 非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額

株式 出資金 271百万円

2. 無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により貸し付けている有価証券が、 「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。 20.290百万円

3. 貸出金のうち、破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

1,487百万円 破綻先債権額 延滞債権額 41 551百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続している ことその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものと して未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、 「未収利息不計上貸出金」という。) のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第 97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定す る事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務 者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以 外の貸出金であります。

4. 貸出金のうち3ヵ月以上延滞債権額はありません。

なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日 から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないもの であります。

5. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。 貸出条件緩和債権額

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的 として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債 務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以 上延滞債権に該当しないものであります。

6. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額 の合計額は次のとおりであります。

合計額 43.450百万円

なお、上記3. から6. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であり ます。

7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査 上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月 13日) に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業 手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分でき る権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

5,551百万円

8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産 有価証券 182,351百万円 その他資産 85百万円 182,436百万円 担保資産に対応する債務

4,346百万円 債券貸借取引受入担保金 101.597百万円 借用金 40,620百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保として、次のものを差し入れておりま

有価証券 89,953百万円

また、その他資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとお りであります。

当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融 資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの 契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高 528,385百万円 うち原契約期間が1年以内のもの 508.857百万円

(又は任意の時期に無条件で取消可能なもの) なお、これらの契約に新れている。 なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、 融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・ フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情 勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会 社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができ はカストランシン、いたいます。 る旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・ 有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている社内手続 に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措 置等を講じております。

10. 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき 当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係 る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これ を控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。 再評価を行った年月日 平成12年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号) 第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地 価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官 が定めて公表した方法により算出した価額に基づいて、奥行価格補正、側方 路線影響加算、間口狭小補正等により合理的な調整を行って算出。

11. 有形固定資産の減価償却累計額

減価償却累計額 33.411百万円

12. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項) による社債に対する保証債務の額 840百万円

### (中間連結損益計算書関係)

「その他経常収益」には、次のものを含んでおります。

貸倒引当金戻入益 610百万円 株式等売却益 446百万円

「その他経常費用」には、次のものを含んでおります。

23百万円 貸出金償却 株式等売却損 232百万円

不良債権を一括売却したこと等による損失 3. 遊休資産、営業利益の減少によりキャッシュ・フローが低下した資産及び地 価が大幅に下落した資産について、以下のとおり減損損失を計上しております。

地域 主な用途 種類 減損損失 秋田県内 土地2か所 営業店舗等 9百万円 秋田県外 遊休資産 建物等2か所 24百万円 34百万円 合 計

資産のグルーピングの方法は、管理会計上の最小区分である営業店単位(た だし、連携して営業を行っている営業店グループは当該グループ単位) でグルー ピングを行っております。また、連結子会社は各社を1つの単位としてグルー

ピングを行っております。 当中間連結会計期間の減損損失の測定に使用した回収可能価額は、正味売却 価額であります。正味売却価額は重要な資産については「不動産鑑定評価基準」 (国土交通省) に基づき評価した価額、重要性の乏しい資産については、路線価 など市場価格を適切に反映している指標に基づいて算定した価額より処分費用 見込額を控除して算定しております。

### (中間連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:千株)

511千株

					( 1 1117)
	当連結会計年度 期首株式数	当中間連結会計 期間増加株式数	当中間連結会計 期間減少株式数	当中間連結会計 期間末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	186,936	_	_	186,936	
合 計	186,936	_	_	186,936	
自己株式					
普通株式	2,129	2,649	587	4,191	(注)
合 計	2,129	2,649	587	4,191	

(注) 自己株式の期首株式数のうち、持株会信託が保有する株式数は511千株で あります。

自己株式の増加数の内訳は、次のとおりであります。

取締役会決議による自己株式の取得による増加 2,641千株 単元未満株式の買取請求による増加 8千株

自己株式の減少数の内訳は、次のとおりであります。

持株会信託による当行株式の売却にともなう減少

ストック・オプションの権利行使にともなう減少 76千株

期末株式数のうち、持株会信託が保有する株式はありません。

2	新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

	新株予約		新株予約権	の目的と	当中間連				
区分	新株予約権の 内訳	権の目的となる株	となる株 当	とたる株   当連結会計		吉会計期間	当中間連結	結会計期 間末残高	摘要
	式の種類		年度期首	増加	減少	会計期間末	(百万円)		
当行	ス ナック・ オプション としての 株予約権			_			57		

3	3. 配当に関する事項 (1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額						
	(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日	
2	P成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	554	3.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日	

(注) 配当金の総額には、持株会信託に対する配当金1百万円を含めておりませ

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当 中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年11月11日 取締役会	普通株式	548	利益剰余金	3.00	平成27年9月30日	平成27年12月10日

### (中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科 日の金額との関係

現金預け金勘定	175,762百万円
無利息預け金	△269百万円
普通預け金	△1,516百万円
定期預け金	△3,000百万円
その他の預け金	△2,835百万円
現金及び現金同等物	168,140百万円

### (リース取引関係)

該当事項はありません。

### (金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次表のとおりでありま なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は含めて おりません ((注2) 参照)。また、中間連結貸借対照表計上額の重要性が乏しい 科目については、記載を省略しております。

			(単位:白万円)
	中間連結貸借 対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	175,762	175,762	_
(2) コールローン及び買入手形	100,699	100,699	_
(3) 買入金銭債権	13,708	13,708	_
(4) 有価証券(*1)			
満期保有目的の債券	596	627	31
その他有価証券	1,023,292	1,023,292	_
(5) 貸出金	1,573,542		
貸倒引当金(*1)	△15,763		
	1,557,779	1,586,381	28,602
資産計	2,871,838	2,900,472	28,633
(1) 預金	2,352,424	2,352,867	442
(2) 譲渡性預金	202,183	202,204	20
(3) コールマネー及び売渡手形	17,754	17,754	_
(4) 債券貸借取引受入担保金	101,597	101,597	_
(5) 借用金	43,915	43,915	_
負債計	2,717,875	2,718,338	463
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(222)	(222)	_
ヘッジ会計が適用されているもの	(1,344)	(1,344)	_
デリバティブ取引計	(1,566)	(1,566)	_

- (\*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しておりま す。なお、有価証券に対する投資損失引当金については、重要性が乏しい ため、中間連結貸借対照表計上額から直接減額しております。
- その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示して おります。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表 示しており、合計で正味の債務となる項目については、( ) で表示してお

### (注1) 金融商品の時価の算定方法

### 資<u>産</u> (1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから 当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、残存期間が1年以内と短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該 帳簿価額を時価としております。

(2) コールローン及び買入手形

これらは、約定期間が短期間(概ね6か月以内)であり、時価は帳簿価額 と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 買入金銭債権

買入金銭債権のうち、長期の信託受益権については、取引金融機関から提 示された価格によっております。長期の信託受益権以外については、約定期間が短期間(概ね3か月以内)であり時価は帳簿価額と近似していることか ら、当該帳簿価額を時価としております。

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示され た価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によってお ります

私募債は、内部格付別、期間別に区分し、信用リスク相当額控除後の将来 キャッシュ・フローを市場金利で割り引いて時価を算定しております。なお、 破綻懸念先に対する私募債については、帳簿価額から個別貸倒引当金相当額 を控除した後の価格を時価としております。 変動利付国債は、当中間連結会計期間において実際の売買事例が極めて少

なく、売手と買手の希望する価格差が著しく乖離しているものについては、 市場価格を時価とみなせないと判断し、経営者の合理的な見積りに基づく合 理的に算定された価額を時価としております。

当中間連結会計期間においては、売手と買手の希望する価格差が著しく乖離していないため、市場価格を時価としております。

変動利付国債の合理的に算定された価額は、固定利付国債の価格に整合的 な割引率と市場で評価されるスワプション・ボラティリティにフィットする 金利の分散をもとに将来の金利推移をモデル化したうえで、将来キャッシュ・ 並可の力格ともこに可ふからが1987と、レルにして、マルス・ドランエーフローを想定し、算出した現在価値であり、国債の利回り及びスワプション・ボラティリティが主な価格決定変数であります。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「(有価証券関 係) | に記載しております。

(5) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、 貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近 似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利による ものは、貸出金の種類別、内部格付別、期間別に区分し、信用リスク相当額 控除後のキャッシュ・フローを期間別の市場金利で割り引いて現在価値を算 定しております。

ただし、上記に関わらず、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債 権等については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を 算定しているため、時価は中間連結決算日における中間連結貸借対照表上の 債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価 額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返 済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、 時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価とし ております。

## <u>負</u> <u>債</u> (1) 預金、及び(2) 譲渡性預金

要求払預金については、中間連結決算日に要求された場合の支払額(帳簿 価額)を時価とみなしております。また、定期預金及び譲渡性預金の時価は、 商品別、期間別に区分し、将来のキャッシュ・フローを新規に預金を受け入 れる際に使用する利率を用いて割り引いて現在価値を算定しております。

(3) コールマネー及び売渡手形

これらは、約定期間が短期間(概ね3か月以内)であり、時価は帳簿価額 と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(4) 債券貸借取引受入担保金

債券貸借取引受入担保金は、約定期間が短期間(概ね3か月以内)であり、 時価が帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としておりま

(5) 借用金

借用金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、 当行及び連結子会社等の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、 時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。なお、固定金利によるものは、中間連結貸借対照表計上額及び時価に重要性がないため、帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引は、金利関連取引(金利スワップ等)、通貨関連取引(為替予約、通貨オプション等)、債券関連取引(債券先物取引等)であり、取引所の価格、 割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算出した価額によっておりま

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間連結貸借 対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(4) その 他有価証券」には含まれておりません。

(単位:百万円)

区 分	平成27年9月30日
非上場株式 (*1) (*2)	1,640
組合出資金(*3)	1,285
その他(*4)	38
合計	2,964

- (\*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて 困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。
- (\*2) 当中間連結会計期間において、減損処理の対象となる非上場株式はあり ません。
- (\*3) 組合出資金のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極 めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の 対象とはしておりません。
- (\*4) その他は、非上場の外国株式等であり、市場価格がなく、時価を把握す ることが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりま

### (有価証券関係)

- 中間連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金、 及び「買入金銭債権」中のその他の買入金銭債権の一部を含めて記載しており
- 2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、中間財務諸表における注記事項 として記載しております。
- (1) 満期保有目的の債券

	種類	中間連結貸借 対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
	国債	596	627	31
	地方債	_	_	_
時価が中間連結貸借対照表	短期社債	_	_	_
計上額を超えるもの	社債	_	_	_
	その他	_	_	_
	小計	596	627	31
	国債	_	_	_
	地方債	_	_	_
時価が中間連結貸借対照表	短期社債	_	_	_
計上額を超えないもの	社債	_	_	_
	その他	_	_	_
	小計	_	_	_
合計		596	627	31

### (2) その他有価証券

	種類	中間連結貸借 対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
	株式	56,172	29,030	27,141
	債券	747,173	730,747	16,425
	国債	377,078	367,166	9,911
中間連結貸借対照表計上額	地方債	49,507	48,240	1,266
が取得原価を超えるもの	短期社債	_	_	_
	社債	320,587	315,340	5,247
	その他	150,024	141,199	8,824
	小計	953,370	900,978	52,392
	株式	944	1,121	△176
	債券	30,644	30,734	△90
	国債	12,961	12,999	△38
中間連結貸借対照表計上額	地方債	_	_	_
が取得原価を超えないもの	短期社債	1,999	1,999	△0
	社債	15,683	15,735	△52
	その他	42,450	43,586	△1,136
	小計	74,038	75,442	△1,403
合計		1,027,409	976,420	50,988

### (3) 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なもの を除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、 時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当 該時価をもって中間連結貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間 連結会計期間の損失として処理(以下、減損処理」という。)しております。 当中間連結会計期間において減損処理の対象となる有価証券はありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、個々の銘柄につ いて、中間連結会計期間末日における時価が取得原価に比べて30%以上下落し ている場合であります。減損処理は、当中間連結会計期間末日における時価が 取得原価に比べ50%以上下落した銘柄についてはすべて実施し、時価の下落が 30%以上50%未満の銘柄については、基準目前一定期間の時価の推移や発行会 社の財務内容などにより、個々に時価の回復可能性を判断し実施しております。

### (金銭の信託関係)

- 1. 満期保有目的の金銭の信託
- 該当事項はありません。 その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

	中間連結貸借 対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)		うち中間連結貸 借対照表計上額 が取得原価を超 えるもの (百万円)	
その他の金銭 の信託	149	149	_	_	_

### (その他有価証券評価差額金)

中間連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、 次のレおりであります

W0000000000000000000000000000000000000	
	金額(百万円)
評価差額	50,989
その他有価証券	50,989
その他の金銭の信託	_
(△) 繰延税金負債	15,747
その他有価証券評価差額金 (持分相当額調整前)	35,242
(△) 非支配株主持分相当額	134
(+) 持分法適用会社が所有するその他有価証券に 係る評価差額金のうち親会社持分相当額	_
その他有価証券評価差額金	35,108

### (デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の 種類ごとの中間連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相 当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。 なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リ スクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

該当事項はありません。

### (2) 通貨関連取引

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
-	通貨先物				
融	売建	_		_	-
商	買建	_		_	_
金融商品取引所	通貨オプション				
一型	売建	_		_	_
191	買建	_	_	_	_
	通貨スワップ	_		_	_
	為替予約				
	売建	588		3	3
	買建	1,280	-	0	0
店頭	通貨オプション				
頭	売建	214		107	107
	買建	165	_	△28	△28
	その他				
	売建	_	-	_	_
	買建	_	_	_	_
	合計	_		82	82

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算 書に計上しております。
  - 2. 時価の算定

割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しておりま

(3) 株式関連取引

該当事項はありません。

倩券関連取引

4) 頂分因連取引						
	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1 年超のもの (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)	
	債券先物					
融	売建	69,000	-	△305	△305	
商	買建	_	-	_	_	
金融商品取引所	債券先物オプション					
梨	売建	_	-	_	_	
191	買建	_		_	_	
	債券店頭オプション					
	売建	_	-	_	_	
店頭	買建	_	-	_	_	
頭	その他					
	売建	_	-	_	_	
	買建	_		_		
	合計	_	_	△305	△305	

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算 書に計上しております。
  - 2. 時価の算定

取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によって おります。

(5) 商品関連取引

該当事項はありません。 クレジット・デリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種 類ごと、ヘッジ会計の方法別の中間連結決算日における契約額又は契約におい て定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりで あります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

### (1) 金利関連取引

1/ 32/1/1/24/1						
ヘッジ会計 の方法	種類	主なヘッジ 対象	契約額等 (百万円)	契約額等のう ち1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)	
	金利スワップ 受取固定・支払変動	_	_	_	_	
原則的 処理方法	受取変動・支払固定	貸出金・ 有価証券	61,000	55,000	△3,063	
处理力伝	金利先物	_	_	_	_	
	金利オプション	_	_		_	
	その他	_	_		_	
金利	金利スワップ					
スワップの	受取固定・支払変動	_	_		_	
特例処理	受取変動・支払固定	_	_		_	
	合計	_	_	_	△3,063	

- (注) 1. 「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の 取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号) に基づ き、繰延ヘッジによっております。
  - 2. 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

### (2) 通貨関連取引

7 10231410 1131						
ヘッジ会計 の方法	種類	主なヘッジ 対象	契約額等 (百万円)	契約額等のう ち1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)	
prints.	通貨スワップ	外国為替	26,967	24,519	24	
原則的 処理方法	為替予約	コールローン	86,046		1,695	
AJE/JIA	その他	_	_	_	_	
為替予約 等の振当	通貨スワップ	_	_	_	_	
処理	為替予約	_	_	_	_	
	合計	_	_	_	1,719	

- (注) 1. 「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上 の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号) に基づ き、繰延ヘッジによっております。
  - 2. 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

該当事項はありません。

### (ストック・オプション等関係)

- 1. ストック・オプションにかかる費用計上額及び科目名
- 営業経費 13百万円

2. ストップ・オフションの内台	
	平成27年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当行常勤取締役8名
株式の種類別のストック・オプションの付与数	普通株式 37,200株
付与日	平成27年7月31日
権利確定条件	権利確定条件は定めていない
対象勤務期間	対象勤務期間は定めていない
権利行使期間	平成27年8月1日から平成57年7月31日まで
権利行使価格	1株当たり 1円
付与日における公正な評価単価	1株当たり364円

### (1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額 1株当たり純資産額

905円65銭

(注)1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。 純資産の部の合計額 171,395百万円 純資産の部の合計額から控除する金額 5,891百万円 (うち新株予約権) 57百万円 (うち非支配株主持分) 5.834百万円

普通株式に係る中間期末の純資産額 1株当たり純資産額の算定に

165,503百万円

- 用いられた中間期末の普通株式の数 182,744千株 2. 以上の算定にあたっては、持株会信託が保有する当行株式数を、控除す る自己株式数に含めております。なお、当中間連結会計期間末株式数はあ りません。
- 2. 1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当た り中間純利益金額及び算定上の基礎

(1) 1株当たり中間純利益金額 19.50円 (算定上の基礎) 親会社株主に帰属する中間純利益 3,602百万円 普通株主に帰属しない金額 普通株式に係る親会社株主に帰属する 一百万円 中間純利益 3,602百万円

普通株式の期中平均株式数 186,936千株 (2) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額 19.48円 (質定上の基礎)

親会社株主に帰属する中間純利益調整額 一百万円 普通株式増加数 222千株 (うち新株予約権) 222千株

希薄化効果を有しないため、潜在株式 調整後1株当たり中間純利益金額の算 定に含めなかった潜在株式の概要

(注) 以上の算定にあたっては、持株会信託が保有する当行株式数を、控除する 自己株式数に含めております。その株式数は222千株であります。

### (会計方針の変更)

(「企業結合に関する会計基準」等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、企業結合会計基準等を適用し、企業 結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っております。 なお、当中間連結会計期間の1株当たり純資産額、1株当たり中間純利

益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額に与える影響額はあ

### (重要な後発事象)

該当事項はありません。

(単位:百万円)

### セグメント情報

### 1. 事業の種類別セグメント情報

前中間連結会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

	銀行業務	リース業務	その他の業務	計	消去	又は全社	連結
経常収益							
(1) 外部顧客に対する経常収益	21,337	2,269	577	24,184	(	46)	24,138
(2) セグメント間の内部経常収益	39	83	307	429	(	429)	_
<u></u>	21,376	2,352	884	24,614	(	475)	24,138
経常費用	16,446	2,286	515	19,248	(	469)	18,779
経常利益	4,929	65	369	5,365	(	6)	5,359

<sup>(</sup>注) 1. 一般企業の売上高および営業利益に代えて、それぞれ経常収益および経常利益を記載しております。 2. 「その他の業務」はクレジットカード業務等であります。

### 当中間連結会計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

	銀行業務	リース業務	その他の業務	計	消去	又は全社	連結
経常収益							
(1) 外部顧客に対する経常収益	21,500	2,312	475	24,287	(	24)	24,263
(2) セグメント間の内部経常収益	117	79	234	432	(	432)	_
計	21,617	2,392	710	24,720	(	457)	24,263
経常費用	16,363	2,236	432	19,033	(	369)	18,663
経常利益	5,254	155	277	5,687	(	87)	5,599

<sup>(</sup>注) 1. 一般企業の売上高および営業利益に代えて、それぞれ経常収益および経常利益を記載しております。2. 「その他の業務」はクレジットカード業務等であります。

リスク管理債権額(連結ベース)

### 2. 所在地別セグメント

全セグメントの経常収益の合計および全セグメントの資産の金額の合計額に占める本邦の割合が90%を超えているため、所在地別セ グメント情報の記載を省略しております。

### 3. 国際業務経常収益

国際業務経常収益が連結経常収益の10%未満のため、国際業務経常収益の記載を省略しております。

(単位:百万円)

フヘノ日廷原惟田(注)					
	平成26年9月30日	平成27年9月30日			
破綻先債権額	1,988	1,487			
延滞債権額	49,223	41,551			
3ヵ月以上延滞債権額	_	_			
貸出条件緩和債権額	1,059	411			
合計	52,270	43,450			
破綻先債権・・・・・・自己査定結果等に基づき未収利息を収益不計上とした貸出金のうち、民事再生等の法的手続が取られているか、または、手形交換所の取引停止処分を受けたお取引先に対する貸出金であります。  延滞債権・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					
であります。(破) 貸出条件緩和債権経済的困難に陥っ 金利減免や返済が	定先債権・延滞債権を たお取引先の再建・	除く。) 支援をはかるために、 いる貸出金でありま			

### 営業の概況 (単体)

### 単体ベース

預金・譲渡性預金の中間期末残高は、前年度末比2億円増加し2兆5,609億円となりました。また、貸出金の中間期末残高は、前年度末比279億円増加し1兆5,771億円となり、有価証券の中間期末残高は、前年度末比7億円減少し1兆269億円となりました。

なお、総資産の中間期末残高は、前年度末比520億円増加し2兆9,258億円となりました。

損益につきましては、経常収益が前年同期比2億4千1百万円増加の216億1千7百万円、経常利益が前年同期比3億2千5百万円増加の52億5千4百万円、そして中間純利益は前年同期比2億2千3百万円増加の35億9百万円となりました。

主要な経営指標等の推移	[単体]				
回 次	第111期中	第112期中	第113期中	第111期	第112期
決算年月	平成25年9月	平成26年9月	平成27年9月	平成26年3月	平成27年3月
経常収益	21,205百万円	21,376百万円	21,617百万円	39,785百万円	42,751百万円
経常利益	5,497百万円	4,929百万円	5,254百万円	8,865百万円	11,013百万円
中間純利益	3,041百万円	3,286百万円	3,509百万円	_	_
当期純利益	_	_	_	6,186百万円	6,706百万円
資本金	14,100百万円	14,100百万円	14,100百万円	14,100百万円	14,100百万円
発行済株式総数	193,936千株	186,936壬株	186,936干株	193,936千株	186,936∓株
純資産額	141,761百万円	153,693百万円	163,509百万円	144,964百万円	166,857百万円
総資産額	2,671,095百万円	2,847,378百万円	2,925,878百万円	2,764,548百万円	2,873,825百万円
預金残高	2,251,714百万円	2,295,686百万円	2,355,064百万円	2,363,464百万円	2,439,744百万円
貸出金残高	1,476,128百万円	1,546,644百万円	1,577,149百万円	1,496,321百万円	1,549,215百万円
有価証券残高	987,603百万円	1,037,661百万円	1,026,994百万円	1,001,028百万円	1,027,662百万円
1株当たり純資産額	<b>758.84</b> ⋳	832.66⋳	894.43ฅ	<b>774.38</b> ⋳	902.53円
1 株当たり中間純利益金額	16.09ฅ	17.63⋳	19.00⋳	_	_
1株当たり当期純利益金額	_	_	_	32.91ฅ	36.14円
潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額	16.08⋳	17.61ฅ	18.98ฅ	_	_
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	_	_	_	32.88ฅ	36.09ฅ
1株当たり配当額	3.00ฅ	3.00ฅ	3.00ฅ	6.00⊩	6.00円
単体自己資本比率(国内基準)	11.84%	11.28%	11.32%	11.45%	11.38%
従業員数 [外、平均臨時従業員数]	1,471人 [611人]	1,464人 [633人]	<b>1,453</b> 人 [715人]	1,429人 [616人]	<b>1,417</b> 人 [638人]

<sup>(</sup>注) 1. 従業員数は、取締役を兼務していない執行役員を含んでおります。

<sup>2.</sup> 単体自己資本比率(国内基準)は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しておりますが、新基準(バーゼルⅢ)に対応するために算式が変更されたことから、平成26年3月末以後における単体自己資本比率は、変更後の算式に基づき算出しております。

### 中間財務諸表

当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前中間事業年度及び当中間事業年度の中間財務諸表について、新日本有 限責任監査法人の監査証明を受けております。

(単位:百万円)

### 中間損益計算書

十间俱無司 异音					
	前中間会計期間 (平成26年4月1日から) 平成26年9月30日まで)	当中間会計期間 (平成27年4月1日から) 平成27年9月30日まで)			
経常収益	21,376	21,617			
資金運用収益	15,298	15,960			
(うち貸出金利息)	( 9,921)	( 9,537)			
(うち有価証券利息配当金)	( 5,143)	( 6,085)			
<b>役務取引等収益</b>	2,986	3,049			
その他業務収益	438	1,416			
その他経常収益	2,653	1,190			
経常費用	16,446	16,363			
資金調達費用	1,130	1,492			
(うち預金利息)	( 634)	( 700)			
役務取引等費用 	1,205	1,294			
その他業務費用	851	1,360			
営業経費	12,952	11,786			
その他経常費用	306	429			
経常利益	4,929	5,254			
特別利益	0	6			
特別損失	41	40			
税引前中間純利益	4,888	5,219			
法人税、住民税及び事業税	750	1,308			
法人税等調整額	851	400			
法人税等合計	1,601	1,709			
中間純利益	3,286	3,509			
(注) 中間損益計算書の注記はP24に掲載してい	ます。				

(単位:百万円)

<sup>(</sup>注) 中間損益計算書の注記はP24に掲載しています。

		(単位:百万円
中間貸借対照表		
	**** pp A = 1 + 2 - 2 .	V/
資産の部	前中間会計期間末(平成26年9月30日)	当中間会計期間 (平成27年9月30日
現金預け金	116,903	175,658
コールローン	107,073	100,699
買入金銭債権	14,232	13,708
商品有価証券	225	_
金銭の信託	1,061	1,112
有価証券	1,037,661	1,026,994
貸出金	1,546,644	1,577,149
外国為替	850	1,464
その他資産	4,444	8,906
その他の資産	4,444	8,906
有形固定資産	21,302	20,795
無形固定資産	1,740	1,527
前払年金費用	4,613	5,381
支払承諾見返	8,307	8,263
貸倒引当金	△17,682	△15,781
投資損失引当金	△0	△0
資産の部合計	2,847,378	2,925,878
負債の部		,
 預金	2,295,686	2,355,064
<sub>限並</sub> 譲渡性預金	215,855	205,883
酸/皮圧/貝並 コールマネー	25,866	17,754
債券貸借取引受入担保金 供用令	96,042	101,597
借用金 公園本誌	17,266	40,600
外国為替	188	63
その他負債	14,735	12,365
未払法人税等	550	1,007
リース債務	145	142
その他の負債	14,040	11,215
役員賞与引当金	10	10
退職給付引当金	6,989	6,990
睡眠預金払戻損失引当金	508	536
<b>偶発損失引当金</b>	510	497
<b>繰延税金負債</b>	9,720	10,968
再評価に係る繰延税金負債	1,995	1,775
支払承諾	8,307	8,263
負債の部合計	2,693,685	2,762,369
純資産の部		
資本金	14,100	14,100
資本剰余金	6,268	6,342
資本準備金	6,268	6,268
その他資本剰余金	_	73
利益剰余金	102,366	108,267
·	14,100	14,100
その他利益剰余金	88,266	94,166
固定資産圧縮積立金	208	213
別途積立金	83,311	88,311
繰越利益剰余金	4,747	5,642
自己株式	△661	△1,309
<u>30 (14.54)</u> 株主資本合計	122,074	127,401
<u>水土貝本口引</u> その他有価証券評価差額金	29,444	35,062
その他有画証分計画左領並 繰延ヘッジ損益	△814	△2,072
	2 926	
土地再評価差額金	2,926	3,060
土地再評価差額金 評価・換算差額等合計	31,556	36,050
土地再評価差額金	_	

<sup>(</sup>注) 中間貸借対照表の注記はP24に掲載しています。

### 中間株主資本等変動計算書

前中間会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

		株主資本									
		Ì	資本剰余金	ž		<b>7</b>	引益剰余金	È			
	資本金	資本	その他	資本	利益	その他利益剰余金		余金	利益	自己株式	株主資本
		準備金	資本 剰余金	剰余金 合計	準備金	固定資産 圧縮積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	剰余金 合計		合計
当期首残高	14,100	6,268	20	6,288	14,100	211	79,311	7,650	101,273	△1,921	119,741
会計方針の変更による 累積的影響額								381	381		381
会計方針の変更を反映した 当期首残高	14,100	6,268	20	6,288	14,100	211	79,311	8,031	101,654	△1,921	120,123
当中間期変動額											
剰余金の配当								△561	△561		△561
固定資産圧縮積立金の取崩						△3		3			<del>-</del>
別途積立金の積立							4,000	△4,000			<b>—</b>
中間純利益								3,286	3,286		3,286
自己株式の取得										△880	△880
自己株式の処分			15	15						90	105
自己株式の消却			△35	△35				△2,013	△2,013	2,049	_
土地再評価差額金の取崩								0	0		0
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)											
当中間期変動額合計	_	_	△20	△20	_	△3	4,000	△3,284	712	1,259	1,951
当中間期末残高	14,100	6,268	_	6,268	14,100	208	83,311	4,747	102,366	△661	122,074

		評価・換	 算差額等			
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	新株予約権	純資産合計
当期首残高	22,859	△612	2,926	25,173	48	144,964
会計方針の変更による 累積的影響額						381
会計方針の変更を反映した 当期首残高	22,859	△612	2,926	25,173	48	145,345
当中間期変動額						
剰余金の配当						△561
固定資産圧縮積立金の取崩						<del></del>
別途積立金の積立						<del>-</del>
中間純利益						3,286
自己株式の取得						△880
自己株式の処分						105
自己株式の消却						<del></del>
土地再評価差額金の取崩						0
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	6,585	△201	△0	6,382	13	6,396
当中間期変動額合計	6,585	△201	△0	6,382	13	8,347
当中間期末残高	29,444	△814	2,926	31,556	62	153,693

当中間会計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

		株主資本										
		Ì	資本剰余金	È		<b>7</b>	引益剰余金	ž				
	資本金	資本	その他	資本	利益	その	他利益剰	余金	利益	自己株式	株主資本	
		準備金	資本 剰余金	剰余金 合計	準備金	固定資産 圧縮積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	剰余金合計		合計	
当期首残高	14,100	6,268	_	6,268	14,100	215	83,311	7,669	105,297	△593	125,073	
当中間期変動額												
剰余金の配当								△554	△554		△554	
固定資産圧縮積立金の取崩						△2		2			_	
別途積立金の積立							5,000	△5,000			_	
中間純利益								3,509	3,509		3,509	
自己株式の取得										△857	△857	
自己株式の処分			73	73						140	214	
土地再評価差額金の取崩								14	14		14	
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)												
当中間期変動額合計	_	_	73	73	_	△2	5,000	△2,026	2,970	△716	2,327	
当中間期末残高	14,100	6,268	73	6,342	14,100	213	88,311	5,642	108,267	△1,309	127,401	

		評価・換	算差額等			
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	新株予約権	純資産合計
——————————— 当期首残高	40,759	△2,113	3,075	41,721	62	166,857
当中間期変動額						
剰余金の配当						△554
固定資産圧縮積立金の取崩						<del>_</del>
別途積立金の積立						_
中間純利益						3,509
自己株式の取得						△857
自己株式の処分						214
土地再評価差額金の取崩						14
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	△5,697	41	△14	△5,670	△5	△5,675
当中間期変動額合計	△5,697	41	△14	△5,670	△5	△3,348
当中間期末残高	35,062	△2,072	3,060	36,050	57	163,509

### 注記事項(当中間会計期間)

### (重要な会計方針)

### 1. 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法 (売却原価は移動平均法により算定) により行

### 2. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原 価法 (定額法)、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価 法、その他有価証券については原則として中間決算日の市場価格等に基づく時 価法 (売却原価は移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて 困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っておりま

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理 しております。

(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として 運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

### 3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

### 4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

有形固定資産は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建 物附属設備を除く。)については定額法)を採用し、年間減価償却費見積額を期 間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物:3年~50年 その他:3年~20年

(2) 無形固定資産 (リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間 (5年) に基づいて償却してお

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形 固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却 しております。

### 5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上して

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関 する実務指針」(日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 平成24 年7月4日)に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権について - 定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出 した貸倒実績率等に基づき計上しております。破綻懸念先債権に相当する債権 については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額 を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及 で実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見 込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

なお、破綻懸念先債権のうち担保等による保全額を控除した金額が一定額以 上である債権及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で与信額が一定額以上の 上てのる頃種及び夏山米市被和頃種学で有りる頃が有しず回廊が一た頭の上が 大口債務者への債権のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシ ュ・フローを当初の約定利子率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸

倒引当金とする方法(キャッシュ・フロー見積法)により計上しております。 すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署の協力の下に 資産査定部署が資産査定を実施しております。

投資損失引当金

投資損失引当金は、投資に対する損失に備えるため、有価証券の発行会社の 財政状態等を勘案して必要と認められる額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与引当金は、役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与 の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における 退職給付債務及び年金資産の見込額信と基づき、当中間会計期間末において発生 していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあ たり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法につい ては給付算定式基準によっております。なお、数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法 により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から損益処理しております。

(5) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止し利益計上を行った睡眠預金の 払戻請求に備えるため、必要と認められる額を計上しております。

(6) 偶発損失引当金

偶発損失引当金は、信用保証協会に対する責任共有制度に基づく負担金の支 払いに備えるため、過去の実績に基づき、将来の支払見込額を計上しておりま

### 6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産及び負債は、中間決算日の為替相場による円換算額を付しておりま

### 7. ヘッジ会計の方法

(イ) 金利リスク・ヘッシ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業 における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認 会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日) に規定する繰延 スロールのスポールの正見を良る私ロカ2・マー 「ルーナーとフェー」 にんだり ○神林と ヘッジによっております。ヘッジ有効性肝価の方法については、相場変動を相 殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる有価証券・貸出金とヘッジ手段であ る金利スワップ取引を特定し評価しております。

(ロ) 為替変動リスク・ヘッジ

州自建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法 は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱 い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日) に は、「(日本人の公司 日間公子他別記具交員公報日第235 下版17年 / 万25日)に 規定する繰延へッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、 外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取 引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債 権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認す ることによりヘッジの有効性を評価しております。

### 8. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、中 間連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税(以下、消費税等という。)の会計処理は、税抜方式に よっております。ただし、有形固度強なしている。 V 云町 を生は、枕板 J 孔に よっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間会 計期間の費用に計上しております。

### (会計方針の変更)

(「企業結合に関する会計基準」等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下、 「企業結合会計基準」という。) 及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下、「事業分離等会計基準」という。) 等を、当 中間会計期間から適用し、取得関連費用を発生した事業年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当中間会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業 結合日の属する中間会計期間の中間財務諸表に反映させる方法に変更いたします。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)及び事業 分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当中間会計期 間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当中間会計期間において、中間財務諸表に与える影響額はありません。

### (追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当行は、従業員への福利厚生を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社 の株式を交付する取引を行っております。

(1) 取引の概要

当行は、平成23年3月22日開催の取締役会決議に基づき、当行従業員持株会 を活用し、福利厚生の拡充を目的としたインセンティブ・プランとして「従業 員持株会信託型ESOP」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

本制度は、「秋田銀行職員持株会」(以下、「持株会」) に加入するすべての従 業員を対象とするインセンティブ・プランです。

本制度では、当行が持株会に加入する従業員のうち一定の要件を充足する者 を受益者とする信託(以下、「持株会信託」)を設定し、持株会信託は持株会が 平成27年6月までの4年間にわたり持株会が取得すると見込まれる数の当行株 式を予め取得します。

その後、持株会信託は持株会の株式取得に際して当該株式を売却していきま す。持株会に対する当行株式の売却を通じて売却益相当額が累積した場合には、 これを残余財産として受益者要件を充足する従業員に対して分配します。

なお、当行は、持株会信託が当行株式を取得するための借入に対して補償を 行うため、当行株価の下落により、持株会信託が借入債務を完済できなかった 場合には、当行が借入先銀行に対して残存債務を弁済することになります。

(2) 信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する会計処理

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日) 第20項を適用し、従来採用し ていた方法を継続しております。

(3) 信託が保有する自社の株式に関する事項

信託が保有する当行株式の期中平均株式数は、当中間会計期間222千株であ

り、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。 なお、当中間会計期間末において、信託が保有する当行株式はありません。

(4) 信託の借入金に関する事項

当中間会計期間末において、信託の借入金はありません。

### (中間貸借対照表関係)

1. 関係会社の株式又は出資金の総額

882百万円 株式 出資金 271百万円

無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により貸し付けている有価証券が、 「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。 20.290百万円

3. 貸出金のうち、破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

1,336百万円 延滞債権額 40,769百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続している ことその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものと して未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、 「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第 97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務 者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以 外の貸出金であります

イン (日本の) カラッカラック (日本の) カース (日本の) から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないもの であります。

5. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は次のとおりであります 貸出条件緩和債権額

403百万円

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的 として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債 務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以 上延滞債権に該当しないものであります。

6. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額 の合計額は次のとおりであります。

42,509百万円

なお、上記3. から6. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であり ます。

手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査 上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月 13日) に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業 手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

5.551百万円

8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券 182.351百万円 その他資産 51百万円 182,402百万円

担保資産に対応する債務

預金 4.346百万円 債券貸借取引受入担保金 101.597百万円 借用金 40.600百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保として、次のものを差し入れておりま

有価証券 89.953百万円

89,953百万円 また、その他の資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のと おりであります。

保証金

9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融 資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限 一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの 契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高 512.840百万円

うち原契約期間が1年以内のもの 493 312百万円

(又は任意の時期に無条件で取消可能なもの)

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、 融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を 与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権 マペンといくにありません。これプロスティッションには、並版にオロタに、 原価の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられておりま また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求する ほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握 し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。 10. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)

による社債に対する保証債務の額

### (中間損益計算書関係)

「その他経常収益」には、次のものを含んでおります。

貸倒引当金戻入益 539百万円 株式等売却益 446百万円

2. 減価償却実施額は次のとおりであります。

520百万円 無形固定資産

「その他経常費用」には、次のものを含んでおります。

0百万円 貸出金償却 株式等売却捐 232百万円 不良債権を一括売却したこと等による損失 0百万円

### (リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

- 1. 所有権移転外ファイナンス・リース取引
- (1) リース資産の内容
- a 有形固定資産
  - 主として、電算機付属機器や自動車等であります。
- b 無形固定資産
- ソフトウェアであります。
- (2) リース資産の減価償却費の方法

重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであり ます。

### (有価証券関係)

1 A LINIONO MEAL	DIVITY.		
	中間貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	_	_	_
関連会社株式	_	_	_
合 計	_	_	_

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株 式の中間貸借対昭表計上額

- 1 1 1 4 2 4 1 H 2 4	m 1 10
	平成27年9月30日 (百万円)
子会社株式	882
関連会社株式	_
合 計	882

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と 認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

### (重要な後発事象)

該当事項はありません。

(単位:百万円、%)

*** ~~		СΠ	44
業務	太口ス	ПΙ	$\rightarrow$
オイリカケ	//=4	ш	ш

		平成26年9月期		平成27年9月期			
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計	
 資金運用収支	13,794	373	14,168	13,890	577	14,468	
資金運用収益	14,804	541	15,298	15,075	944	15,960	
資金調達費用	1,010	168	1,130	1,184	367	1,492	
	1,775	5	1,780	1,751	3	1,754	
役務取引等収益	2,974	12	2,986	3,036	12	3,049	
役務取引等費用	1,198	7	1,205	1,285	9	1,294	
その他業務収支	△347	△65	△413	△201	257	56	
その他業務収益	433	5	438	1,159	257	1,416	
その他業務費用	780	70	851	1,360	_	1,360	
 業務粗利益	15,222	313	15,536	15,440	838	16,279	
業務粗利益率	1.17	0.44	1.18	1.14	0.85	1.17	

<sup>(</sup>注) 特定取引収支は該当ありません。

(単位:百万円)

業務純益									
	平成26年9月期	平成27年9月期							
資金運用収支	14,168	14,468							
役務取引等収支	1,780	1,754							
その他業務収支	△ 413	56							
経費 (△)	12,551	11,559							
一般貸倒引当金繰入額(△)	_	_							
業務純益	2,984	4,719							

(単位:百万円、%)

### 資金運用勘定・資金調達勘定の平均残高等

国内業務部門

		平成26年9月期			平成27年9月期	
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	2,579,335	14,804	1.14	2,696,364	15,075	1.11
うち貸出金	1,473,690	9,894	1.33	1,511,491	9,492	1.25
商品有価証券	38	0	0.12	3	0	0.01
有価証券	927,457	4,770	1.02	901,460	5,423	1.19
コールローン	27,994	24	0.17	32,759	22	0.13
買現先勘定	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>_</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>
債券貸借取引支払保証金	<u> </u>	_	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>
買入手形	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
 預け金	27,478	35	0.25	112,060	57	0.10
資金調達勘定	2,522,962	1,009	0.07	2,605,185	1,184	0.09
うち預金	2,260,460	607	0.05	2,358,322	662	0.05
譲渡性預金	215,805	66	0.06	190,933	53	0.05
コールマネー	218	0	0.12	<del></del>	<del></del>	<del></del>
売現先勘定	<del></del>	<del>-</del>	<del>_</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>
債券貸借取引受入担保金	31,618	7	0.04	23,977	5	0.04
売渡手形	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>
コマーシャル・ペーパー	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>
借用金	15,820	8	0.10	32,906	16	0.10

(単位:百万円、%)

### 資金運用勘定・資金調達勘定の平均残高等

### 国際業務部門

		平成26年9月期			平成27年9月期	
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	140,993	541	0.76	194,564	944	0.96
うち貸出金	8,542	27	0.64	13,599	44	0.65
商品有価証券	_	_	<del>_</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>
有価証券	72,031	372	1.03	108,557	661	1.21
コールローン	59,728	138	0.46	67,938	228	0.67
買現先勘定	<del></del>	<del>-</del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
債券貸借取引支払保証金	<u> </u>	<u> </u>	<del>_</del>	—	<u> </u>	<del></del>
買入手形	<u> </u>	<u> </u>	<del>_</del>	<del>-</del>	<u> </u>	<del>-</del>
預け金	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>	2,672	2	0.19
資金調達勘定	140,673	168	0.23	194,754	367	0.37
うち預金	10,782	27	0.50	9,685	37	0.76
譲渡性預金	_	_	<del></del>	<u> </u>	<u> </u>	<del></del>
コールマネー	14,655	27	0.38	17,566	52	0.59
売現先勘定	<del></del>	<del>-</del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
債券貸借取引受入担保金	5,139	3	0.14	39,721	57	0.28
売渡手形	<u> </u>	<u> </u>	<del>_</del>	<u> </u>	_	<del>_</del>
コマーシャル・ペーパー	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>	<del></del>	<del>-</del>	<del></del>
借用金	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>

<sup>(</sup>注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

(単位:百万円、%)

### 資金運用勘定・資金調達勘定の平均残高等

### 合 計

		平成26年9月期		平成27年9月期			
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り	
資金運用勘定	2,610,294	15,298	1.16	2,763,211	15,960	1.15	
うち貸出金	1,482,233	9,921	1.33	1,525,091	9,537	1.24	
商品有価証券	38	0	0.12	3	0	0.01	
有価証券	999,489	5,143	1.02	1,010,017	6,085	1.20	
コールローン	87,723	162	0.36	100,698	251	0.49	
買現先勘定	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	
債券貸借取引支払保証金	_	_	<del>_</del>	<del>-</del>	<u> </u>	<del>-</del>	
買入手形	<del>-</del>	<del></del>	<del></del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>	
預け金	27,478	35	0.25	114,732	59	0.10	
資金調達勘定	2,553,602	1,129	0.08	2,672,222	1,492	0.11	
うち預金	2,271,243	634	0.05	2,368,007	700	0.05	
譲渡性預金	215,805	66	0.06	190,933	53	0.05	
コールマネー	14,873	28	0.37	17,566	52	0.59	
売現先勘定	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	
債券貸借取引受入担保金	36,758	11	0.06	63,698	62	0.19	
売渡手形	<del>-</del>	<del></del>	<del></del>	<del>-</del>	<u> </u>	<del></del>	
コマーシャル・ペーパー	<del>-</del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del>-</del>	<del></del>	
借用金	15,820	8	0.10	32,906	16	0.10	

(単位:百万円)

### 役務取引の状況

	平成26年9月期				平成27年9月期			
	国内業務部門	国際業務部門	合	計	国内業務部門	国際業務部門	合	計
	2,974	12		2,986	3,036	12		3,049
受入為替手数料	883	12		896	866	12		879
その他の受入手数料	2,090	0		2,090	2,170	<del></del>		2,170
役務取引等費用	1,198	7		1,205	1,285	9		1,294
支払為替手数料	137	5		142	134	6		141
その他の支払手数料	1,061	1		1,062	1,151	2		1,153

(単位:百万円)

### その他業務収支の内訳

		平成26年9月期		平成27年9月期			
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計	
その他業務収益	433	5	438	1,159	257	1,416	
うち外国為替売買益	/	_	<u> </u>	/	240	240	
商品有価証券売買益	0	<del>-</del>	0	0	_	0	
国債等債券売却益	428	<del></del>	428	1,158	17	1,176	
国債等債券償還益	_	_	_	_	_	_	
金融派生商品収益	4	5	9	_	_	<u> </u>	
その他	<del>-</del>	<u> </u>	<del>-</del>	0	_	0	
その他業務費用	780	70	851	1,360	_	1,360	
うち外国為替売買損	/	70	70	/	<u> </u>	<u> </u>	
商品有価証券売買損	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	_	<u> </u>	<del>-</del>	
国債等債券売却損	36	<u> </u>	36	817	_	817	
国債等債券償還損	744	<u> </u>	744	543	_	543	
国債等債券償却	<del></del>	<del></del>	_	_	_	<u> </u>	
金融派生商品費用	<del>-</del>	<del>-</del>	_	_	_	<del>-</del>	
その他	_	_	_	_	_	_	
合計	△347	△65	△413	△201	257	56	

(単位:百万円)

### 受取利息・支払利息の分析

	平成26年	9月期	平成27年9月期			
	国内業務部門	国際業務部門	国内業務部門	国際業務部門		
受取利息						
残高による増減	429	182	654	261		
利率による増減	△1,148	△50	△383	142		
純増減	△719	132	271	403		
支払利息						
残高による増減	31	56	38	102		
利率による増減	115	△10	137	97		
純増減	146	46	175	199		

<sup>(</sup>注) 残高および利率の増減要因が重なる部分については、残高による増減要因に含めて記載しております。

(単位:百万円)

営業経費の内訴
---------

平成26年9月期	平成27年9月期
4,941	4,734
589	454
898	862
930	754
253	251
75	49
185	155
164	158
64	64
339	345
116	129
778	791
3,614	3,033
12,952	11,786
	589 898 930 253 75 185 164 64 339 116 778 3,614

(単位:百万円、%)

### 預金科目別残高

	平成26年9月期			平成27年9月期								
	国内業務	部門	国際業務	部門	合	計	国内業務	部門	国際業務	<b>落部門</b>	合	計
中間期末残高	2,500,465	(100.0)	11,077	(100.0)	2,511,542	(100.0)	2,551,488	(100.0)	9,459	(100.0)	2,560,948	(100.0)
流動性預金	1,149,917	(46.0)	_		1,149,917	(45.8)	1,192,317	(46.7)	_		1,192,317	(46.6)
うち有利息預金	959,431	(38.4)	_		959,431	(38.2)	997,144	(39.1)	_		997,144	(38.9)
定期性預金	1,111,298	(44.4)	<del>-</del>		1,111,298	(44.2)	1,129,974	(44.3)	_		1,129,974	(44.1)
うち固定金利定期預金	1,110,188	(44.4)	/		1,110,188	(44.2)	1,128,992	(44.2)	/		1,128,992	(44.1)
うち変動金利定期預金	1,075	(0.0)	/		1,075	(0.0)	953	(0.0)	/		953	(0.0)
その他預金	23,393	(0.9)	11,077	(100.0)	34,470	(1.4)	23,313	(0.9)	9,459	(100.0)	32,772	(1.3)
合計	2,284,609	(91.4)	11,077	(100.0)	2,295,686	(91.4)	2,345,605	(91.9)	9,459	(100.0)	2,355,064	(92.0)
譲渡性預金	215,855	(8.6)	/	(—)	215,855	(8.6)	205,883	(8.1)	/	(—)	205,883	(8.0)
平均残高	2,476,266	(100.0)	10,782	(100.0)	2,487,048	(100.0)	2,549,255	(100.0)	9,685	(100.0)	2,558,940	(100.0)
流動性預金	1,148,657	(46.4)	_		1,148,657	(46.2)	1,221,124	(47.9)	_		1,221,124	(47.7)
うち有利息預金	963,556	(38.9)	_		963,556	(38.7)	1,015,911	(39.9)	_		1,015,911	(39.7)
定期性預金	1,102,808	(44.5)	<u> </u>		1,102,808	(44.3)	1,128,178	(44.3)			1,128,178	(44.1)
うち固定金利定期預金	1,101,662	(44.5)	/		1,101,662	(44.3)	1,127,139	(44.2)	/		1,127,139	(44.0)
うち変動金利定期預金	1,106	(0.0)	/		1,106	(0.0)	1,007	(0.0)	/		1,007	(0.0)
その他預金	8,994	(0.4)	10,782	(100.0)	19,776	(0.8)	9,019	(0.4)	9,685	(100.0)	18,704	(0.7)
合計	2,260,460	(91.3)	10,782	(100.0)	2,271,243	(91.3)	2,358,322	(92.5)	9,685	(100.0)	2,368,007	(92.5)
譲渡性預金	215,805	(8.7)	/	(—)	215,805	(8.7)	190,933	(7.5)	/	(—)	190,933	(7.5)

(単位:百万円)

### 定期預金の残存期間別残高

	÷#	75¢					
	定期預金		うち固定金	利定期預金	うち変動金利定期預金		
	平成26年9月30日	平成27年9月30日	平成26年9月30日	平成27年9月30日	平成26年9月30日	平成27年9月30日	
3か月以下	290,059	301,340	289,950	301,247	109	93	
3か月超6か月以下	234,694	248,946	234,636	248,865	57	81	
6か月超1年以下	414,321	419,877	414,118	419,695	203	182	
1年超2年以下	30,418	23,622	30,013	23,363	405	259	
2年超3年以下	18,720	17,585	18,421	17,247	299	337	
3年超	13,602	9,085	13,602	9,085	_	_	
合計	1,001,818	1,020,458	1,000,743	1,019,504	1,075	953	

<sup>(</sup>注) 本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

(単位:百万円、%)

(単位:百万円)

預金者別残高					
	平成26年9	月30日	平成27年9月30日		
	残高	残高	構成比		
個人	1,632,732	71.1	1,662,763	70.6	
法人	525,739	22.9	550,689	23.4	
その他	137,214	6.0	141,612	6.0	
合計	2,295,686	100.0	2,355,064	100.0	
(注) 譲渡性碩全は今まれておりません	*				

th.
+ /

財形貯蓄残高		
	平成26年9月30日	平成27年9月30日
財形貯蓄	20,404	20,371

<sup>(</sup>注) 1. 流動性預金=当座預金+普通預金+貯蓄預金+通知預金 2. 定期性預金=定期預金+定期積金 固定金利定期預金:預入時に満期日迄の利率が確定する定期預金 変動金利定期預金:預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金 3. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

(単位:百万円)

### 貸出金科目別残高

		平成26年9月期		平成27年9月期			
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計	
中間期末残高	1,535,725	10,918	1,546,644	1,563,042	14,106	1,577,149	
手形貸付	50,067	_	50,067	46,543	_	46,543	
証書貸付	1,281,727	10,918	1,292,645	1,326,371	14,106	1,340,477	
当座貸越	198,001	/	198,001	184,576	/	184,576	
割引手形	5,929	/	5,929	5,551	/	5,551	
平均残高	1,473,690	8,542	1,482,233	1,511,491	13,599	1,525,091	
手形貸付	43,250	_	43,250	38,756	<del>-</del>	38,756	
証書貸付	1,282,283	8,542	1,290,825	1,328,652	13,599	1,342,252	
当座貸越	142,764	/	142,764	138,853	/	138,853	
割引手形	5,393	/	5,393	5,228	/	5,228	

<sup>(</sup>注) 1. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

(単位:百万円)

### 貸出金・支払承諾見返担保別内訳

	平成26年	9月30日	平成27年9月30日		
	貸出金残高	支払承諾見返残高	貸出金残高	支払承諾見返残高	
——————— 有価証券	101	_	67	_	
	14,086	1	12,884	2	
商品	_	_	_	_	
不動産	106,942	924	103,894	1,038	
その他	1,325	_	1,443	_	
 計	122,456	926	118,290	1,041	
保証	651,602	5,680	654,192	5,156	
信用	772,585	1,701	804,665	2,065	
	1,546,644	8,307	1,577,149	8,263	

(単位:百万円)

リスク管理債権額					
	平成26年9月30日	平成27年9月30日			
破綻先債権額	1,761	1,336			
延滞債権額	48,405	40,769			
3ヵ月以上延滞債権額	_	_			
貸出条件緩和債権額	1,048	403			
合計	51,214	42,509			

万円)

	17020-373000	170027 - 373301
破綻先債権額	1,761	1,336
延滞債権額	48,405	40,769
3ヵ月以上延滞債権額	_	_
貸出条件緩和債権額	1,048	403
合計	51,214	42,509

	(単位:百万
金融再生法開示債権額	

並はコニムがいてには					
	平成26年9月30日	平成27年9月30日			
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	13,184	12,794			
危険債権	37,261	29,556			
要管理債権	1,048	403			
計	51,493	42,754			
正常債権	1,504,914	1,544,209			
合計	1,556,408	1,586,963			
	*				

破綻先債権……自己査定結果等に基づき未収利息を収益不計上とした貸出 金のうち、民事再生法等の法的手続が取られているか、ま たは、手形交換所の取引停止処分を受けたお取引先に対す

る貸出金であります。

延滞債権・・・・・・自己査定結果等に基づき未収利息を収益不計上とした貸出 金のうち、「破綻先債権」に該当しない貸出金であります。

3ヵ月以上延滞債権…元金または利息の支払いが、3か月以上滞っている貸出金 であります。(破綻先債権・延滞債権を除く。)

貸出条件緩和債権……経済的困難に陥ったお取引先の再建・支援をはかるために、 金利減免や返済方法の変更等を行っている貸出金でありま

す。(破綻先債権・延滞債権・3ヵ月以上延滞債権を除く。)

破産更生債権及び これらに準ずる債権…破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申し立て等 の事由により経営破綻となったお取引先に対する債権およ

びこれらに準ずる債権であります。

危険債権……お取引先の財政状態および経営が悪化し、契約にしたがっ た債権の元本回収および利息の受取りができない可能性の 高い債権であります。

要管理債権………3ヵ月以上延滞債権(破産更生債権・危険債権を除く。)お よび貸出条件緩和債権(破産更生債権・危険債権・3ヵ月

以上延滞債権を除く。)であります。

<sup>2.</sup> 国際業務部門の当座貸越および割引手形は該当ありません。

(単位:百万円、%)

# 貸出金使途別内訳 平成26年9月30日 平成27年9月30日 残高 構成比 残高 構成比 設備資金 485,985 31.4 501,320 31.8 運転資金 1,060,659 68.6 1,075,829 68.2 合計 1,546,644 100.0 1,577,149 100.0

(単位:百万円、%)

### 業種別貸出金内訳

	平成26年9	平成26年9月30日		月30日
	残高	構成比	残高	構成比
国内業務部門(除<特別国際金融取引勘定分)	1,535,725	100.0	1,563,042	100.0
	173,575	11.3	170,725	10.9
農業、林業	5,209	0.3	5,817	0.4
	64	0.0	58	0.0
鉱業、採石業、砂利採取業	10,477	0.7	10,017	0.6
	63,102	4.1	64,329	4.1
電気・ガス・熱供給・水道業	28,161	1.8	36,690	2.3
情報通信業	15,018	1.0	11,783	0.8
運輸業、郵便業	35,406	2.3	42,115	2.7
卸売業、小売業	155,756	10.1	155,958	10.0
金融業、保険業	78,029	5.1	77,308	4.9
	120,932	7.9	132,324	8.5
学術研究、専門・技術サービス業	4,455	0.3	4,510	0.3
	14,436	0.9	14,483	0.9
飲食業	7,310	0.5	6,917	0.4
生活関連サービス業、娯楽業	10,907	0.7	10,641	0.7
教育、学習支援業	2,436	0.2	2,663	0.2
	62,090	4.1	59,472	3.8
その他のサービス	25,622	1.7	26,571	1.7
地方公共団体	378,228	24.6	378,050	24.2
その他	344,504	22.4	352,601	22.6
国際業務部門及び特別国際金融取引勘定分	10,918	100.0	14,106	100.0
	_	_	_	<del>-</del>
	_	_	_	_
その他	10,918	100.0	14,106	100.0
	1,546,644	_	1,577,149	_

(単位:百万円)

4-6	凩	=1	11/	$\triangle$	-	=	7
= 1	231	5	_		N	<b>=</b> :	٠
52		-	_	ж		ᄱ	А

	一般貸佣	<b>鳄</b>  当金	個別貸佣	<b>鳄</b>  当金	うち非居住者	 皆向け債権分	特定海外債	権引当勘定	合	計
	平成26年9月期	平成27年9月期	平成26年9月期	平成27年9月期	平成26年9月期	平成27年9月期	平成26年9月期	平成27年9月期	平成26年9月期	平成27年9月期
期首残高	3,341	2,346	16,816	14,122	_	_	_	_	20,157	16,468
期中増加額	2,573	2,994	15,109	12,787	_	_	_	_	17,682	15,781
期中減少額	3,341	2,346	16,816	14,122	_	_	_	_	20,157	16,468
目的使用		<del></del>	717	146	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	717	146
その他	3,341	2,346	16,098	13,975	<del>-</del>	<del></del>	<del></del>	<del>-</del>	19,439	16,321
中間期末残高	2,573	2,994	15,109	12,787	_	_	_	_	17,682	15,781

### 貸出金の残存期間別残高

	貸Ы	 比金	うち変	 動金利	うち固定金利		
	平成26年9月30日	平成27年9月30日	平成26年9月30日	平成27年9月30日	平成26年9月30日	平成27年9月30日	
1年以下	186,799	158,127	/	/	/	/	
1年超3年以下	184,546	177,523	88,479	75,630	96,066	101,893	
3年超5年以下	205,585	215,098	76,803	89,817	128,781	125,280	
5年超7年以下	148,884	167,230	59,312	71,331	89,572	95,898	
7年超	622,826	674,592	157,730	196,281	465,096	478,311	
期間の定めのないもの	198,001	184,576	_	_	198,001	184,576	
合計	1,546,644	1,577,149	382,326	433,060	977,518	985,960	

<sup>(</sup>注) 残存期間1年以下の貸出金につきましては、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

(単位:百万円、%)

中小企業等向け貸出金残高 平成26年9月30日 平成27年9月30日 中小企業等向け貸出 806.703 829.778 総貸出に占める割合 52.15 52.61

<sup>(</sup>注) 1. 貸出金残高には、特別国際金融取引勘定分は含まれておりません。
2. 中小企業等とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円)以下の会社または常用する従業員が300人(ただし、卸売業、物品賃貸業等 は100人、小売業、飲食業は50人)以下の企業等であります。

(単位	:	百万円)

員出金債却額		
	,	
	平成26年9月期	平成27年9月期
貸出金償却額	_	0

(単位:百万円) 個人ローン残高

個人ローク 茂同		
	平成26年9月30日	平成27年9月30日
住宅ローン	300,198	308,367
その他のローン	21,922	23,417
合計	322,121	331,785

### 特定海外債権残高

該当事項はありません。

### 証券業務

(単位:百万円、%)

### 有価証券残高

**公山** A 尚書

		平成26年9月期		平成27年9月期			
	国内業務部門	国際業務部門	숨 計	国内業務部門	国際業務部門	숨 計	
中間期末残高	951,413 (100.0)	86,248 (100.0)	1,037,661 (100.0)	922,289 (100.0)	104,704 (100.0)	1,026,994 (100.0)	
国債	409,807 (43.1)	/	409,807 (39.5)	390,039 (42.3)	/	390,039 (38.0)	
地方債	70,975 (7.4)	/	70,975 (6.8)	49,507 (5.4)	/	49,507 (4.8)	
短期社債	2,999 (0.3)	/	2,999 (0.3)	1,999 (0.2)	/	1,999 (0.2)	
社債	348,759 (36.7)	/	348,759 (33.6)	336,271 (36.5)	/	336,271 (32.7)	
株式	54,852 (5.8)	/	54,852 (5.3)	59,531 (6.4)	/	59,531 (5.8)	
その他の証券	64,019 (6.7)	86,248 (100.0)	150,267 (14.5)	84,940 (9.2)	104,704 (100.0)	189,645 (18.5)	
うち外国債券	/	86,212 (100.0)	86,212 (8.3)	/	104,663 (100.0)	104,663 (10.2)	
うち外国株式	/	35 (0.0)	35 (0.0)	/	40 (0.0)	40 (0.0)	
平均残高	927,457 (100.0)	72,031 (100.0)	999,489 (100.0)	901,460 (100.0)	108,557 (100.0)	1,010,017 (100.0)	
国債	411,512 (44.4)	/	411,512 (41.2)	398,201 (44.2)	/	398,201 (39.4)	
地方債	72,776 (7.8)	/	72,776 (7.3)	52,873 (5.9)	/	52,873 (5.2)	
短期社債	3,786 (0.4)	/	3,786 (0.4)	3,130 (0.4)	/	3,130 (0.3)	
社債	349,988 (37.7)	/	349,988 (35.0)	333,913 (37.0)	/	333,913 (33.1)	
株式	32,945 (3.6)	/	32,945 (3.3)	32,702 (3.6)	/	32,702 (3.3)	
その他の証券	56,447 (6.1)	72,031 (100.0)	128,479 (12.8)	80,639 (8.9)	108,557 (100.0)	189,196 (18.7)	
うち外国債券	/	71,998 (100.0)	71,998 (7.2)	/	108,523 (100.0)	108,523 (10.7)	
うち外国株式		33 (0.0)	33 (0.0)	/	33 (0.0)	33 (0.0)	

<sup>(</sup>注) 1. 国際業務部門の国内店外資建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。 2. 国際業務部門の国債、地方債、短期社債、社債および株式は該当ありません。

(単位:百万円)

## 公共債引受額・公共債窓口販売実績別内訳

	平成265	年9月期	平成27年9月期		
	引受額	窓口販売額	引受額	窓口販売額	
 国債	_	311	_	103	
地方債・政府保証債	23,379	_	6,401	_	
合計	23,379	311	6,401	103	

商品有価証券の平均残高

平成26	年9月期	平成27年9月期		
売買高	平均残高	売買高	平均残高	
2,168	28	458	3	
28	10	5	0	
_	_	_	_	
_	_	_	_	
2,196	38	463	3	
	売買高 2,168 28 —	売買高 平均%高 2,168 28 28 10 — —	2,168 28 458 28 10 5  	

(単位:百万円)

(単位:百万円)

### 有価証券の残存期間別残高

		1年以下	1 年超 3 年以下	3年超 5年以下	5 年超 7 年以下	7年超 10年以下	10年超	期間の定め のないもの	合計
<b>京</b> /	平成26年9月30日	48,685	107,616	48,729	91,534	72,028	41,214	_	409,807
国債	平成27年9月30日	74,367	67,366	67,520	84,157	15,106	81,520	_	390,039
₩ <i>士</i> /ឝ	平成26年9月30日	18,224	27,190	22,706	_	_	2,853	_	70,975
地方債	平成27年9月30日	611	42,708	3,465	_	_	2,722	_	49,507
たこかり 土/主	平成26年9月30日	2,999	_	_	_	_	_	_	2,999
短期社債	平成27年9月30日	1,999	_	_	_	_	_	_	1,999
· 上/生	平成26年9月30日	20,747	84,978	112,985	72,625	56,915	507	_	348,759
社債	平成27年9月30日	26,396	103,992	86,586	69,116	49,670	509	_	336,271
+#-=	平成26年9月30日	/	/	/	/	/	/	54,852	54,852
株式	平成27年9月30日	/	/	/	/	/	/	59,531	59,531
るの場の証券	平成26年9月30日	11,105	32,720	51,243	3,726	12,163	5,393	33,914	150,267
その他の証券	平成27年9月30日	17,887	25,825	73,619	5,312	34,571	1,058	31,370	189,645
シナ以 団 唐 米	平成26年9月30日	10,516	27,405	40,338	1,691	1,919	4,340	_	86,212
うち外国債券	平成27年9月30日	16,944	21,478	53,055	1,498	11,686	_	_	104,663
さと以同性学	平成26年9月30日	/	/	/	/	/	/	35	35
うち外国株式	平成27年9月30日	/	/	/	/	/	/	40	40

### 国際・為替業務

(単位:百万米ドル)

外国為替取扱高						
		平成26年9月期	平成27年9月期			
—————————————————————————————————————	売渡為替	328	242			
仕向為替	買入為替	1	1			
<b>*ホルウサ#</b>	支払為替	333	232			
被仕向為替	取立為替	0	_			
合計		663	476			

内国為替取扱高						
		平成26年9月期	平成27年9月期			
送金為替	各地へ向けた分	3,282,606	3,298,546			
	各地より受けた分	3,019,083	3,043,083			
<b>少</b>	各地へ向けた分	74,489	64,042			
代金取立	各地より受けた分	108,090	93,034			

(単位:百万米ドル)

外貨建資産残高		
	平成26年9月30日	平成27年9月30日
外貨建資産残高	964	1,219

### 有価証券の時価等

中間貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金および「買入金銭債権」中のその他 の買入金銭債権の一部を含めて記載しております。

### (1) 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

(単位:百万円)

### (2) 子会社株式及び関連会社株式

	平成26年9月30日			平成27年9月30日		
	中間貸借対照表計上額	時価	差額	中間貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	_	_	_	_	_	_
関連会社株式	<del>-</del>	<del>-</del>	<u> </u>	_	<del>-</del>	_
合計	_	_	_	_	_	_

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
	中間貸借対照表計上額	中間貸借対照表計上額
子会社株式	837	882
関連会社株式	_	_
合計	837	882

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(単位:百万円)

### (3) その他有価証券

			#26 <b>#</b> 0 <b>P</b> 20 F			#27 <b>#</b> 0 <b>P</b> 20 F	,
	種類	中間貸借対照表計上額	成26年9月30日		平成27年9月30日		
	1278		取得原価	差額	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
	株式	49,752	28,452	21,299	56,172	29,030	27,141
	債券	789,396	774,523	14,873	747,173	730,747	16,425
	国債	396,846	389,341	7,504	377,078	367,166	9,911
中間貸借対照表 計上額が取得原価	地方債	70,975	68,976	1,999	49,507	48,240	1,266
司工領が取得原画 を超えるもの	短期社債	_	_	_	_	_	_
CRE/C G GV/	社債	321,573	316,204	5,368	320,587	315,340	5,247
	その他	123,176	114,116	9,060	149,715	141,159	8,556
	小計	962,325	917,092	45,232	953,062	900,937	52,124
	株式	2,683	2,942	△258	944	1,121	△176
	債券	43,145	43,213	△68	30,644	30,734	△90
	国債	12,961	12,999	△38	12,961	12,999	△38
中間貸借対照表 計上額が取得原価	地方債	<u> </u>	_	<del>-</del>	<u> </u>	_	_
司工額が取得原恤 を超えないもの	短期社債	2,999	2,999	△0	1,999	1,999	△0
	社債	27,185	27,214	△29	15,683	15,735	△52
	その他	30,864	31,206	△342	42,450	43,586	△1,136
	小計	76,692	77,362	△669	74,038	75,442	△1,403
合計		1,039,018	994,454	44,563	1,027,100	976,379	50,720

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

	平成26年9月30日	平成27年9月30日		
	中間貸借対照表計上額	中間貸借対照表計上額		
株式	1,578	1,531		
その他	998	1,324		
合計	2,577	2,856		

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

### (追加情報)

平成26年中間期

金融資産のうち、変動利付国債は、当中間会計期間において実際の売買事例が極めて少なく、売手と買手の希望する価格差が著しく乖離しているものについては、市 場価格を時価とみなせないと判断し、経営者の合理的な見積りに基づく合理的に算定された価額を時価としております。 当中間会計期間においては、売手と買手の希望する価格差が著しく乖離していないため、市場価格を時価としております。 変動利付国債の合理的に算定された価額は、固定利付国債の価格に整合的な割引率と市場で評価されるスワプション・ボラティリティにフィットする金利の分散をも

とに将来の金利推移をモデル化したうえで、将来キャッシュ・フローを想定し、算出した現在価値であり、国債の利回り及びスワプション・ボラティリティが主な価格 決定変数であります。

金融資産のうち、変動利付国債は、当中間会計期間において実際の売買事例が極めて少なく、売手と買手の希望する価格差が著しく乖離しているものについては、市 場価格を時価とみなせないと判断し、経営者の合理的な見積りに基づく合理的に算定された価額を時価としております。

当中間会計期間においては、売手と買手の希望する価格差が著しく乖離していないため、市場価格を時価としております。 変動利付国債の合理的に算定された価額は、固定利付国債の価格に整合的な割引率と市場で評価されるスワプション・ボラティリティにフィットする金利の分散をも とに将来の金利推移をモデル化したうえで、将来キャッシュ・フローを想定し、算出した現在価値であり、国債の利回り及びスワプション・ボラティリティが主な価格

### (4) 減損処理を行った有価証券

### 平成26年中間期

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて 著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上 額とするとともに、評価差額を当中間会計期間の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

当中間会計期間における減損処理額は、133百万円(うち株式133百万円)であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、個々の銘柄について、当中間会計期間末日における時価が取得原価に比べ て30%以上下落している場合であります。減損処理は、当中間会計期間末日における時価が取得原価に比べ50%以上下落した銘柄につ いてはすべて実施し、時価の下落が30%以上50%未満の銘柄については、基準日前一定期間の時価の推移や発行会社の財務内容などに より、個々に時価の回復可能性を判断し実施しております。

### 平成27年中間期

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて 著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上 額とするとともに、評価差額を当中間会計期間の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

当中間会計期間において、減損処理の対象となる有価証券はありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、個々の銘柄について、当中間会計期間末日における時価が取得原価に比べ て30%以上下落している場合であります。減損処理は、当中間会計期間末日における時価が取得原価に比べ50%以上下落した銘柄につ いてはすべて実施し、時価の下落が30%以上50%未満の銘柄については、基準日前一定期間の時価の推移や発行会社の財務内容などに より、個々に時価の回復可能性を判断し実施しております。

### 金銭の信託の時価等

### (1) 満期保有目的の金銭の信託

### 該当事項はありません。

(単位:百万円)

### (2) その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

### 平成26年中間期

	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えるもの	うち中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えないもの
その他の金銭の信託	9	9	_	_	_

### 平成27年中間期

	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えるもの	うち中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えないもの
その他の金銭の信託	149	149	_	_	_

#### デリバティブ取引情報

#### 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間決算日における契約額又は契約において 定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金 額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

#### (1) 金利関連取引

#### 該当事項はありません。

(単位:百万円)

#### (2) 通貨関連取引

				平成26年	9月30日			平成27年	9月30日	
区分	分 種類		契約額等		時価	評価損益	契約額等		時価	評価損益
			Z#36#X3	うち1年超	20 Jm	0110037700	/\*\J_\*\\	うち1年超	0.0 im	
	通貨先物	売建	_	_	_	_	_	_	_	_
取引所		買建	<u> </u>	<b>—</b>		<del>_</del>	<u> </u>	<u> </u>	<del>-</del>	<del>-</del>
	通貨オプション	売建	<del>-</del>							
		買建	_	_	_	_	_	_	_	_
店頭	通貨スワップ		_	_	_	_	_	_	_	_
	為替予約	売建	163	_	△1	△1	588	_	3	3
		買建	1,670	_	1	1	1,280	_	0	0
	通貨オプション	売建	171	_	△335	△335	214	_	107	107
		買建	138	_	144	144	165	_	△28	△28
	その他	売建	_	_	_	_	_	_	_	_
		買建	_	_	_	_	_	_	_	_
合計			_	_	△191	△191	_	_	82	82

<sup>(</sup>注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

#### (3) 株式関連取引

該当事項はありません。

#### (4) 債券関連取引

-				平成26年	9月30日		平成27年9月30日			
区分		種類	契約額等		時価	評価損益	契約額等		時価	評価損益
			大小山田石	うち1年超	四川	可叫识皿	大小山田石	うち1年超	四四	可叫识如
	債券先物	売建	3,400	_	2	2	69,000	_	△305	△305
取引所		買建	<u> </u>		<del>-</del>	<del></del>	<del>-</del>	<del>-</del>	_	_
	債券先物オプション	売建		<del>-</del>		<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
		買建				<del></del>	<del>-</del>	—		<del>-</del>
店頭	債券店頭オプション	売建	_	_	_	_	_	_	_	_
		買建	<u> </u>		<del>-</del>	<del></del>	<del>-</del>	<del>-</del>	_	_
	その他	売建		<del>-</del>		<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
		買建				<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
合計			_	_	2	2	_	_	△305	△305

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によっております。

(5) 商品関連取引

該当事項はありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

該当事項はありません。

#### 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の中間決算日における契約 額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、 その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(単位:百万円)

#### (1) 金利関連取引

				平成26年9	9月30日			平成27年9	9月30日	
ヘッジ会計の 方法	種类	頁	主なヘッジ 対象	契約額等	うち1年超	時価	主なヘッジ 対象 契約額等 うち1年超		時価	
	金利スワップ	受取固定・ 支払変動	_	_	_	_	_	_	_	_
原則的		受取変動・ 支払固定	貸出金・ 有価証券	61,000	61,000	△1,290	貸出金・ 有価証券	61,000	55,000	△3,063
処理方法	金利先物		<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	—	<del></del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>
	金利オプション	/	<del>-</del>	_	_	<del>-</del>	_	<del>-</del>	_	<del>-</del>
	その他		<del></del>	<del>-</del>	<del>-</del>		<del></del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>
金利スワップの	金利スワップ	受取固定・ 支払変動	_	_	_	_	_	_	_	_
特例処理		受取変動・ 支払固定	_	_			_	_		_
合計			_	_	_	△1,290	_	_	_	△3,063

<sup>(</sup>注) 1. 「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号) に基づき、繰延ヘッジによっております。 2. 時価の算定 割引現在価値等により算定しております。

#### (2) 通貨関連取引

	種類		平成26年9	9月30日		平成27年9月30日			
ヘッジ会計の 方法		主なヘッジ 契約額等 うち1:			時価	主なヘッジ 対象	契約額等		時価
		刈家		うち1年超		刈家		うち1年超	
	通貨スワップ	外国為替	22,896	22,896	33	外国為替	26,967	24,519	24
原則的 処理方法	為替予約	コールローン・ コールマネー	85,744	_	△3,071	コールローン	86,046	_	1,695
	その他	<u> </u>	—	—	<del>-</del>	<del>-</del>	—	<del>-</del>	<del>-</del>
為替予約等の 振当処理	通貨スワップ	_	_	_	_	_	_	_	_
	為替予約	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>		<del>-</del>	<del>-</del>	
合計		_	_	_	△3,038	_	_	_	1,719

<sup>(</sup>注) 1. 「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号) に基づき、繰延ヘッジによっております。 2. 時価の算定 割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

該当事項はありません。

#### オフ・バランス取引

(単位:百万円)

#### 金融派生商品および先物外国為替取引

	契約金額・	想定元本額	信用リス	ク相当額	取引の内容		
	平成26年9月30日	平成27年9月30日	平成26年9月30日	平成27年9月30日	取引の内容		
金利および通貨スワップ	81,111	84,079	2,209	2,242	将来の一定期間にわたって、あらかじめ、決められた金融指標を基準に、キャッシュ・フロー(元本・金利等)を交換する取引です。		
先物外国為替	89,322	85,076	978	2,582	将来の受渡日に、約定為替相場で異種通貨の交換を行うこと を予約する取引です。		
通貨オプション(買)	13,559	12,061	304	147	将来の特定期日または特定期間内に、あらかじめ定めた価格 で金利や通貨を購入または売却する権利を売買する取引です。		
合計	183,993	181,217	3,493	4,971			

<sup>(</sup>注) 上記計数は自己資本比率(国内基準)に基づくものであり、信用リスク相当額の算出にあたっては、カレント・エクスポージャー方式を採用しております。 なお、自己資本比率の対象になっていない原契約期間が5営業日以内の先物外国為替取引の契約金額は、平成26年9月30日は1,551百万円、平成27年9月30日は1,233百万円であります。

与信関連取引	与	言	関	連	取	弓
--------	---	---	---	---	---	---

	金	額	<b>取記の内容</b>		
	平成26年9月30日	平成27年9月30日	→ 取引の内容		
コミットメント	468,010	512,840	貸越契約額から中間期末貸越額を差し引いた枠空き等		
保証取引	8,307	8,263	支払承諾等		
合計	476,318	521,103			

(単位:%)

利	鞱	•	利	回	1)	等

		平成26年9月期		平成27年9月期				
	国内業務部門	国際業務部門	合	計	国内業務部門	国際業務部門	合	計
資金運用利回	1.14	0.76	1.1	16	1.11	0.96		1.15
資金調達原価	1.06	0.35	1.0	06	0.96	0.45		0.97
総資金利鞘	0.08	0.41	0.	10	0.15	0.51		0.18

(単位:%)

利益率		
	平成26年9月期	平成27年9月期
総資産経常利益率	0.36	0.37
資本経常利益率	6.58	6.34
総資産中間純利益率	0.24	0.24
資本中間純利益率	4.39	4.23

<sup>(</sup>注) 1. 総資産経常 (中間純) 利益率=経常 (中間純) 利益・総資産平残 (支払承諾見返除く) 資本経常 (中間純) 利益率=経常 (中間純) 利益・{(期首純資産額-期首新株予約権)+(中 間期末純資産額-中間期末新株予約権)}÷2 2. 上記利益率は年率換算しております。

(単位:%)

マエイーセンファ		マエニエラ
預貸率	•	預証率

			平成26年9月期		平成27年9月期				
		国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計		
預貸率	中間期末	61.41	98.56	61.58	61.26	149.12	61.58		
	期中平均	59.51	79.22	59.59	59.29	140.41	59.59		
預証率	中間期末	38.04	778.58	41.31	36.14	1,106.85	40.10		
	期中平均	37.45	668.06	40.18	35.36	1,120.85	39.47		

(単位:百万円)

1店舗当たり預金・貸出金						
	平成26年9月30日	平成27年9月30日				
預金	26,161	26,676				
貸出金	16,110	16,428				

<sup>(</sup>注) 1. 預金には、譲渡性預金を含んでおります。 2. 店舗数には、出張所数を含んでおりません。

(単位:百万円) **従業員1人当たり預全。貸出全** 

1に未見「八コにり] 摂立・貝山立							
	平成26年9月30日	平成27年9月30日					
預金	1,710	1,761					
貸出金	1,053	1,084					

<sup>(</sup>注) 預金には、譲渡性預金を含んでおります。

### 資本・株式等

(単位:百万円)

箵	本金	ന	推	2
炅	42	<b>V</b> /		כו

	平成25年9月30日	平成26年9月30日	平成27年9月30日
増資額	_	_	_
増資後資本金	14,100	14,100	14,100
摘要	/	/	/

(平成27年9月30日現在)

大株主		
氏名又は名称	所有株式数	発行済株式総数に対する所有株式数の割合
明治安田生命保険相互会社	8,046干株	4.30%
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	6,492	3.47
日本生命保険相互会社	6,251	3.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,907	3.15
秋田銀行職員持株会	5,615	3.00
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人シティバンク銀行株式会社)	4,443	2.37
株式会社秋田銀行(自己株式)	4,191	2.24
住友生命保険相互会社	3,447	1.84
東京海上日動火災保険株式会社	3,321	1.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,889	1.54
合計	50,604	27.07

(平成27年9月30日現在)

I	区分	株主数	所有株式数	割合	
政府・地方公共	共団体	1人	3単元	0.00%	
金融機関		52	78,827	42.57	
金融商品取引	 <b>業者</b>	23	1,791	0.97	
その他の法人		683	30,097	16.25	
外国法人等	個人以外	95	19,083	10.30	
	個人	0	0	0.00	
個人・その他		6,112	55,394	29.91	
 合計		6,966	185,195	100.00	
			(注) 1 単元の株式数1,000株		
単元未満株式の		/	1,741,439株		

<sup>(</sup>注) 自己株式4,191,900株は「個人・その他」に4,191単元、「単元未満株式の状況」に900株含まれております。

## 自己資本の充実の状況等

「銀行法施行規則(昭和57年大蔵省令第10号)第19条の2第1項第5号二等の規定に基づき、自 己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項」(金融庁告示第7号、自己資本比率規 制の第3の柱(市場規律))に基づき、中間事業年度に係る説明書類に記載すべき事項につきまして、 以下のとおり開示いたします。

なお、以下の文中における「自己資本比率告示」及び「告示」とは、「金融庁告示第19号、自己資 本比率規制の第1の柱(最低所要自己資本比率)」を指しております。

#### 自己資本の構成に関する開示事項(連結)

	·			(単位:百万円)
項目	平成26年9月末	経過措置による不算入額	平成27年9月末	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目(1)	·	,		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	124,359		129,781	
うち、資本金及び資本剰余金の額	20,372		20,445	
うち、利益剰余金の額	105,202		111,193	
うち、自己株式の額(△)	661		1,309	
うち、社外流出予定額 (△)	553		548	
うち、上記以外に該当するものの額	<del>-</del>		—	
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	<del>-</del>		△184	
うち、為替換算調整勘定	<del>-</del>		—	
うち、退職給付に係るものの額	—		△184	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	62		57	
コア資本に係る調整後少数株主持分の額	—			
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額			_	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	2,925		3,325	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	2,925		3,325	
うち、適格引当金コア資本算入額			—	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	<del>-</del>	***************************************		
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額			<del>-</del>	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、				
コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	_		_	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、	2 21 4		1 050	
コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	2,214		1,958	
少数株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	5,570			
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額			5,130	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	135,132		140,068	
コア資本に係る調整項目(2)	*		`	
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	_	1,779	311	1,246
うち、のれんに係るもの(のれん相当差額を含む。)の額	<del>-</del>		—	
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	—	1,779	311	1,246
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	<u> </u>			
適格引当金不足額	_			
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額			<del>-</del>	
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額				
退職給付に係る資産の額	—	2.096	993	3,973
自己保有普通株式等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額				
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額			<del>-</del>	
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額				
特定項目に係る十パーセント基準超過額			—	
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額				
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額				
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額		***************************************		
特定項目に係る十五パーセント基準超過額			—	
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額		***************************************		
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額		***************************************		***************************************
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額				
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)			1.304	
自己資本			1,504	
自己資本の額((イ)-(ロ)) (ハ)	135,132		138,763	
リスク・アセット等(3)	133,132		130,703	
ウスン・アセット寺(3) 信用リスク・アセットの額の合計額	1,070,541		1,104,932	
16円リスプ・アセットの観のロ町観 うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	3,876		5,219	
		***************************************		
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	1,779		1,246	
うち、繰延税金資産	2 006		2.072	
うち、退職給付に係る資産	2,096		3,973	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー				
うち、上記以外に該当するものの額			<del>-</del>	
うち、少数出資金融機関等の対象普通株式等				
うち、土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額		***************************************		
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額				
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	62,600		61,188	
信用リスク・アセット調整額	<u> </u>			
オペレーショナル・リスク相当額調整額	_			
リスク・アセット等の額の合計額 (二)	1,133,142		1,166,121	
連結自己資本比率				
連結自己資本比率((ハ)/(二))	11.92%		11.89%	
(注) ト記計事の当内問期主 (平成27年9月主) に係る「頂日」については、平成27年3月26日公布の「全融店	生子等24年 附則等 4	ターに甘べき 「コマギ	マナー (でス 田東文公八米/北	+ 土 は八の蛇し ナ 「コ

<sup>(</sup>注) 上記計表の当中間期末 (平成27年9月末) に係る「項目」については、平成27年3月26日公布の「金融庁告示第24号 附則第4条」に基づき、「コア資本に係る調整後少数株主持分の額」を「コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額」を「非支配株主持分の31」とし、「少数株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額」を「非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額」としております。

#### 定量的な開示項目(連結)

1. その他金融機関等(自己資本比率告示第29条第6項第1号に規定するその他金融機関等をいう。)であって銀行の子法人等であるもののうち、規制上の所要自己資本を下回った会社の名称、所要自己資 本を下回った額の総額 該当ありません。

# 2. 自己資本の充実度に関する事項イ. 信用リスクに対する所要自己資本の額

(甾位	프트田/

項 目	平成26年	∓9月末	平成27年9月末		
<b>県日</b>	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額	
【資産(オン・バランス)項目】					
現金	_	_	_	_	
我が国の中央政府及び中央銀行向け	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	
外国の中央政府及び中央銀行向け	445	17	434	17	
国際決済銀行等向け	<del>-</del>	<del>_</del>	<del>-</del>	_	
我が国の地方公共団体向け	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>_</del>	<del>-</del>	
外国の中央政府等以外の公共部門向け	773	30	648	25	
国際開発銀行向け	<del>-</del>	<del>-</del>	3	0	
地方公共団体金融機構向け	355	14	588	23	
我が国の政府関係機関向け	3,348	133	3,323	132	
地方三公社向け	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	46,067	1,842	40,775	1,631	
法人等向け	384,989	15,399	396,408	15,856	
中小企業等向け及び個人向け	242,773	9,710	255,231	10,209	
抵当権付住宅ローン	21,889	875	21,203	848	
不動産取得等事業向け	92,477	3,699	96,696	3,867	
三月以上延滞等	2,118	84	1,798	71	
取立未済手形	0	0	<del></del>	<del></del>	
信用保証協会等による保証付	6,627	265	6,455	258	
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	<del>-</del>	<del>-</del>	<u> </u>	_	
出資等	59,929	2,397	58,076	2,323	
(うち出資等のエクスポージャー)	59,929	2,397	58,076	2,323	
(うち重要な出資のエクスポージャー)	<del>-</del>	<del>-</del>	<u> </u>	<u> </u>	
上記以外	180,930	7,237	192,066	7,682	
(うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に 該当するもの以外のものに係るエクスポージャー)	_	_	1,250	50	
(うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー)	_	<b>—</b>	<b>—</b>	_	
(うち上記以外のエクスポージャー等)	180,930	7,237	190,816	7,632	
証券化(オリジネーターの場合)	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	_	
(うち再証券化)	<del>-</del>	<u> </u>	_	_	
証券化(オリジネーター以外の場合)	1,228	49	709	28	
(うち再証券化)	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	
複数の資産を裏付とする資産(いわゆるファンド)のうち、個々の 資産の把握が困難な資産	1,690	67	_	_	
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	3,876	155	5,219	208	
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	_	_	_	_	
資産 (オン・バランス) 計 (イ)	1,049,521	41,980	1,079,640	43,185	

	平成26	年9月末	平成27年9月末	
項 目	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
【オフ・バランス取引等項目】				
任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	<u> </u>	<u> </u>	_	_
原契約期間が1年以下のコミットメント	159	6	97	3
短期の貿易関連偶発債務	0	0	_	<u> </u>
特定の取引に係る偶発債務	2,226	89	2,451	98
(うち経過措置を適用する元本補填信託契約)	<u> </u>	<del>-</del>	_	<del>-</del>
NIF又はRUF	_	_	_	_
原契約期間が1年超のコミットメント	7,857	314	11,392	455
内部格付手法におけるコミットメント	_	<u> </u>	_	_
信用供与に直接的に代替する偶発債務	3,358	134	3,195	127
(うち借入金の保証)	3,358	134	3,195	127
(うち有価証券の保証)	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>
(うち手形引受)	<del>-</del>	<del>-</del>		<del></del>
(うち経過措置を適用しない元本補填信託契約)	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>_</del>
(うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供)		_	_	_
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等(控除後)	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>
 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等(控除前)	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>
	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>
先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	<del>-</del>	<u> </u>	<u> </u>	<del>-</del>
有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は 有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	4,036	161	4,192	167
派生商品取引及び長期決済期間取引	1,348	53	1,564	62
カレント・エクスポージャー方式	1,348	53	1,564	62
派生商品取引	1,348	53	1,564	62
外為関連取引	1,207	48	1,429	57
	141	5	135	5
金関連取引	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>
株式関連取引	<u> </u>	<u> </u>	—	<del></del>
貴金属(金を除く)関連取引	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del></del>
	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<del>-</del>
クレジット・デリバティブ取引 (カウンター・パーティー・リスク)	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>
	<del>-</del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
長期決済期間取引	<u> </u>	<del>-</del>	<del></del>	<del></del>
	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>
	<del>-</del>	<del></del>	<del></del>	<del>-</del>
未決済取引	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
証券化エクスポージャーに係る適格流動性補完及び 適格なサービサー・キャッシュ・アドパンス	_	<u> </u>	_	<u> </u>
上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	<u> </u>	_	_	<u> </u>
オフ・バランス取引等 計 (ロ)	18,987	759	22,893	915
【CVAリスク相当額】(簡便的リスク測定方式) (ハ)	2,022	80	2,346	93
【中央清算機関関連エクスポージャー】 (二)	10	0	51	2
合計 ((イ) + (ロ) + (ハ) + (二))	1,070,541	42,821	1,104,932	44,197

<sup>(</sup>注) 所要自己資本額=リスク・アセット×4%

#### ロ. オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

(単位:百万円) 平成26年9月末 平成27年9月末 オペレーショナル・リスク(粗利益配分手法) 2,504 2,447

#### ハ. 連結総所要自己資本の額

(単位:百万円) 平成26年9月末 平成27年9月末 連結総所要自己資本の額合計 45,325 46,644

3. 信用リスク(信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く。)に関する事項 イ. 信用リスクに関するエクスポージャーの中間期末残高 (地域別、業種別、残存期間別) (単位:百万円)

(単位:百万円)

国内計	合計 2,847,494 91,174 2,938,669	信用リスクエクスポー うち貸出金等 (注)1 1,661,565 2,080	·ジャー中間期末残高 うち債券 818,558	うちデリバティブ	三月以上延滞 エクスポージャー (注)2
国外計	2,847,494 91,174	1,661,565			エクスポージャー (注)2
国外計	91,174		818,558	0.400	
		2,080		3,493	6,144
	2,938,669		85,304	_	_
地域別合計		1,663,645	903,862	3,493	6,144
製造業	289,600	179,560	95,531	477	1,517
農業、林業	6,404	6,401	<del></del>	3	368
漁業	138	138	<del></del>	<del>-</del>	<del>-</del>
鉱業、採石業、砂利採取業	11,115	10,980	<b>—</b>	<del>-</del>	<u> </u>
建設業	72,823	67,076	4,794	6	191
電気・ガス・熱供給・水道業	36,895	32,652	3,228	0	<del>-</del>
情報通信業	19,274	17,208	1,019	0	27
運輸業、郵便業	61,861	35,521	23,994	1	131
卸売業、小売業	173,093	159,867	7,707	106	1,249
金融業、保険業	412,968	193,057	69,244	2,681	<del>-</del>
不動産業、物品賃貸業	168,995	126,757	31,702	2	711
学術研究、専門・技術サービス業	5,578	5,574	<del>-</del>	<del>-</del>	24
宿泊業	14,692	14,586	<del>-</del>	<del>-</del>	57
飲食業	8,505	8,505	—	0	131
生活関連サービス業、娯楽業	12,903	10,748	2,064	0	907
教育、学習支援業	2,537	2,537	<del>-</del>	<del>-</del>	
医療・福祉	65,532	65,529	<del>-</del>	2	52 28
その他のサービス	28,525	27.695	354	4	28
国・地方公共団体	1,061,490	378,228	622,360	<del>-</del>	_
個人	323,377	321,018	—	203	745
その他	162,355		41,860	0	<del>-</del>
業種別合計	2,938,669	1,663,645	903.862	3,493	6,144
1年以下	426,043	186,245	100,793	1,283	67
1年超3年以下	432,033	181,434	244,366	1,123	967
3年超5年以下	436,923	203,949	221,574	486	148
5年超7年以下	313,010	146,728	161,591	<del>-</del>	224
7年超	809,940	622,125	175,536	600	701
期間の定めのないもの	520,717	323,162	······································		4,035
残存期間別合計	2,938,669	1,663,645	903,862	3,493	6,144

(地域別、業種別、残存期間別)

	平成27年9月末						
		信用リスクエクスポー	-ジャー中間期末残高		三月以上延滞		
	合 計	うち貸出金等 (注)1	うち債券	うちデリバティブ	エクスポージャー (注)2		
国内計	2,909,779	1,702,943	762,079	4,971	4,322		
国外計	112,638	2,980	103,120	<del>-</del>	<del>-</del>		
地域別合計	3,022,418	1,705,923	865,199	4,971	4,322		
製造業	289,595	181,286	93,782	529	553		
農業、林業	7,237	7,236	<del>-</del>	0	62		
漁業	136	136	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>		
鉱業、採石業、砂利採取業	10,554	10,419	_	_	_		
建設業	76,309	68,164	7,105	3	272		
電気・ガス・熱供給・水道業	46,517	42,846	2,649	0	_		
情報通信業	17,639	14,171	2,324	0	2		
運輸業、郵便業	69,853	42,224	25,283	0	22		
卸売業、小売業	173,003	160,304	7,312	127	1,262		
金融業、保険業	392,340	199,607	61,935	4,258	175		
不動産業、物品賃貸業	187,231	138,180	31,791	1	827		
学術研究、専門・技術サービス業	5,597	5,593	<del>-</del>	<del>-</del>	31		
宿泊業	14,655	14,543	<del>-</del>	<del>-</del>	107		
飲食業	8,134	8,113	_	0	113		
生活関連サービス業、娯楽業	12,401	11,161	1,150	0	129		
教育、学習支援業	2,776	2,776	_	0	2		
医療・福祉	62,915	62,913	<del>-</del>	2	41		
その他のサービス	29,312	28,683	184	1	96		
国・地方公共団体	1,104,745	378,050	592,323		<del>-</del>		
個 人	331,849	329,509	_	44	618		
その他	179,609	<del>-</del>	39,356	0	<del>-</del>		
業種別合計	3,022,418	1,705,923	865,199	4,971	4,322		
1年以下	394,592	157,652	119,988	2,787	102		
1年超3年以下	414,252	175,883	232,431	1,553	73		
3年超5年以下	444,046	213,545	207,508	30	144		
5年超7年以下	318,414	164,788	149,247	<del></del>	131		
7年超	854,760	673,898	156,023	600	694		
期間の定めのないもの	596,352	320,155			3,175		
残存期間別合計	3,022,418	1,705,923	865,199	4,971	4,322		

#### ロ. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の中間期末残高及び期中の増減額

(単位:百万円)

(+== : =:5)13/								
	平成26年9月末				平成27年9月末			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高
一般貸倒引当金	3,762	2,925	3,762	2,925	2,758	3,325	2,758	3,325
個別貸倒引当金	17,982	16,292	17,982	16,292	15,240	13,899	15,240	13,899
特定海外債権引当勘定	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<del>-</del>	<u> </u>	<u> </u>	<del>-</del>
貸倒引当金合計	21,744	19,218	21,744	19,218	17,998	17,224	17,998	17,224

#### ◇一般貸倒引当金の地域別、業種別内訳

(単位:百万円)

	平成26年9月末				平成27年9月末			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高
国内計	3,762	2,925	3,762	2,925	2,758	3,325	2,758	3,325
国外計		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<del>-</del>	<u> </u>	_	_
地域別合計	3,762	2,925	3,762	2,925	2,758	3,325	2,758	3,325

<sup>※</sup>業種別については区分ごとの算定を行っておりません。

◇個別貸倒引当金の地域別、業種別内訳

		平成26年	 年9月末		平成27年9月末			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高	高 期首残高 期中増加額 期中減少額			中間期末残高
国内計	17,982	16,292	17,982	16,292	15,240	13,899	15,240	13,899
国外計	<u> </u>	_	<u> </u>	_	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	_
地域別合計	17,982	16,292	17,982	16,292	15,240	13,899	15,240	13,899
製造業	4,404	2,611	4,404	2,611	2,379	2,299	2,379	2,299
農業、林業	380	347	380	347	77	69	77	69
漁 業	0	0	0	0	0	7	0	7
鉱業、採石業、砂利採取業	9	9	9	9	9	8	9	8
建設業	2,914	2,655	2,914	2,655	2,642	791	2,642	791
電気・ガス・熱供給・水道業	<del></del>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>
情報通信業	31	28	31	28	0	0	0	0
運輸業、郵便業	43	63	43	63	54	45	54	45
卸売業、小売業	2,709	2,761	2,709	2,761	1,791	1,775	1,791	1,775
金融業、保険業	78	73	78	73	190	146	190	146
不動産業、物品賃貸業	1,295	1,224	1,295	1,224	1,926	1,827	1,926	1,827
学術研究、専門・技術サービス業	41	43	41	43	44	44	44	44
宿泊業	3,148	3,496	3,148	3,496	3,623	4,204	3,623	4,204
飲食業	530	444	530	444	490	462	490	462
生活関連サービス業、娯楽業	900	951	900	951	243	225	243	225
教育、学習支援業	3	<u> </u>	3	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<del></del>
医療・福祉	52	254	52	254	472	469	472	469
その他のサービス	120	100	120	100	153	334	153	334
国・地方公共団体	<u> </u>	_	<u> </u>	_	_	_	_	_
個 人	1,315	1,226	1,315	1,226	1,140	1,186	1,140	1,186
その他	—	_	<u> </u>	_	_	_	_	_
業種別合計	17,982	16,292	17,982	16,292	15,240	13,899	15,240	13,899

#### ハ. 業種別の貸出金償却の額

(単位:百万円)

<b>――</b> ――――――――――――――――――――――――――――――――――	<b>元ポッと左り口士</b>	₩#37# 0 B±
業種名	平成26年9月末	平成27年9月末
製造業	_	0
農業、林業	<del>-</del>	<del></del>
漁業	<del>-</del>	<del>-</del>
鉱業、採石業、砂利採取業	<u> </u>	<u> </u>
建設業	<u> </u>	<del>-</del>
電気・ガス・熱供給・水道業	<del></del>	<del></del>
情報通信業	<del>_</del>	<del>_</del>
運輸業、郵便業	_	<u> </u>
卸売業、小売業	0	<u> </u>
金融業、保険業	<del></del>	<del></del>
不動産業、物品賃貸業	<del>-</del>	<del>-</del>
学術研究、専門・技術サービス業	_	_
宿泊業	<u> </u>	0
飲食業	<del></del>	0
生活関連サービス業、娯楽業	<del>-</del>	7
教育、学習支援業	_	_
医療•福祉	<u> </u>	<u> </u>
その他のサービス	<del>-</del>	<del>-</del>
国・地方公共団体	<del>-</del>	<del>-</del>
個 人	21	13
その他	_	_
業種別合計	22	23

二. 標準的手法が適用されるエクスポージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高

				(単位・日万円)
リスク・	平成264	年9月末	平成27年	年9月末
ウェイト区分	格付あり(注)	格付なし	格付あり(注)	格付なし
0%	_	1,164,333	_	1,221,613
10%	<u> </u>	106,778	<u> </u>	102,114
20%	81,934	318,771	74,939	308,113
35%	<del>-</del>	62,541	<del></del>	60,580
50%	299,000	2,438	313,042	2,723
75%	<u> </u>	325,229	<u> </u>	341,762
100%	67,604	482,977	49,978	521,847
150%	<del></del>	1,081	<del></del>	962
250%		<del>-</del>	500	<del></del>
1250%	_	<u> </u>	_	
合計	448,539	2,464,152	438,460	2,559,717

(注)格付は告示第65条(法人向けエクスポージャー)において適格格付機関の格付が付与されているエクスポージャーを基準としております。

#### 4. 信用リスク削減手法に関する事項

イ. 標準的手法が適用されるポートフォリオについて、適格金融 資産担保が適用されたエクスポージャーの額

(単位:百万円)

		(112 2/313/
担保区分	平成26年9月末	平成27年9月末
現金及び自行預金(注)	108,412	112,991
金	<u> </u>	_
適格債券	<del>-</del>	<u> </u>
適格株式	<del>_</del>	<del>_</del>
適格投資信託	<del>-</del>	_
適格金融資産担保合計	108,412	112,991

(注) 現金及び自行預金には、貸出金と自行預金との相殺によって削減されたエクスポージャーの額を含んでおります。

ロ. 標準的手法が適用されるポートフォリオについて、保証又はクレジット・デリバティブが適用されたエクスポージャーの額

		(単位:百万円)
保証区分	平成26年9月末	平成27年9月末
適格保証	5,599	5,269
適格クレジット・デリバティブ	<del>-</del>	_
適格保証、クレジット・デリバティブ合計	5,599	5,269

- 5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手 のリスクに関する事項
- イ. 与信相当額の算出に用いる方式 カレント・エクスポージャー方式により算出しております。
- ロ. グロスの再構築コスト(零を下回らないものに限る。)の 合計額

(単位:百万円)

	平成26年9月末	平成27年9月末
グロス再構築コスト	753	2,228

ハ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額

(単位:百万円)

		(単位・日月日)
種類及び取引区分	平成26年9月末	平成27年9月末
外国為替関連取引及び金関連取引	2,788	4,296
金利関連取引	705	675
株式関連取引	<del></del>	<del>_</del>
貴金属関連取引(金関連取引を除く)	<del>-</del>	_
その他のコモディティ関連取引	<del></del>	<del></del>
クレジット・デリバティブ	<del></del>	<del></del>
合計	3,493	4,971

- (注) 原契約期間が5営業日以内の外為関連取引の与信相当額は上記記載から除いております。
- 二. 口に掲げる合計額及びグロスのアドオンの合計額からハに 掲げる額を差し引いた額(カレント・エクスポージャー方式を用いる場合に限る。) 該当する金額はありません。
- ホ. 担保の種類別の額

信用リスク削減のために担保は用いておりません。

へ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額

「ハ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額」と同額であります。

- ト. 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの 想定元本額をクレジット・デリバティブの種類別、かつ、 プロテクションの購入又は提供の別に区分した額 クレジット・デリバティブ取引を行っていないため、該 当ありません。
- チ. 信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額 クレジット・デリバティブ取引を行っていないため、該 当ありません。

- 6. 証券化エクスポージャーに関する事項
- イ. 連結グループがオリジネーターである証券化エクスポージ ャーに関する事項 該当ありません。
- ロ. 連結グループが投資家である証券化エクスポージャーに関 する事項
  - 保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の 種類別の内訳

フォン・バランフ取引

(畄位・五万四)

(本位・日が1)								
原債権の種類	再証券化を	除く証券化	再証券化					
ぶ頃惟の性類	平成26年9月末	平成27年9月末	平成26年9月末	平成27年9月末				
住宅ローン債権	2,441	1,927	_	_				
自動車ローン債権	1,785	2,275	<u> </u>	<del>-</del>				
消費者ローン・割賦債権	1,916	1,271	<del></del>	<u> </u>				
売掛債権	<u> </u>	<del></del>	<del></del>	<del></del>				
事業者向け貸出債権	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<u>—</u>				
不動産向け債権	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<u> </u>				
リース債権	<del>-</del>	<del>_</del>	<del>-</del>	_				
その他	<u> </u>	<del></del>	<del></del>	<u> </u>				
合計	6,143	5,475	_	_				

○オフ・バランス取引 オフ・バランス取引については該当ありません。

(2) 保有する証券化エクスポージャーのリスク・ウェイト区分 ごとの残高及び所要自己資本の額

(単位・五下田)

			(半四・						
	再証券化を除く証券化					再証券化			
リスク・	リスク・ 平成26年9月末		平成275	平成27年9月末		平成26年9月末		平成27年9月末	
ウェイト区分	残高	所要自己 資本額	残高	所要自己 資本額	残高	所要自己 資本額	残高	所要自己 資本額	
20%	6,143	49	5,475	43	_	_	_	_	
50%	_	_	_	_	_	_	_	_	
100%	_	_	_	_	_	_	_	_	
350%	_	_	_	_	_	_	_	_	
1250%	_	_	_	_	_	_	_	_	
合計	6,143	49	5,475	43	_	_	_	_	

- ○オフ・バランス取引 オフ・バランス取引については該当ありません。
- (3) 自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250% のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャー の額及び主な原資産の種類別の内訳

○オン・バランス取引

(単位:百万円)

原債権の種類	再証券化を	除く証券化	再証券化		
ぶ頃惟の俚規	平成26年9月末	平成27年9月末	平成26年9月末	平成27年9月末	
貸付債権	_	_	_	_	
不動産向け債権	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	
その他			_		
合計	_		_	_	

○オフ・バランス取引 オフ・バランス取引については該当ありません。

(4) 保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク 削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適 用されるリスク・ウェイト区分ごとの内訳 該当ありません。

#### 7. マーケット・リスクに関する事項

自己資本比率算定において、マーケット・リスク相当額 に係る額を算入していないため、本項目に記載する事項は ありません。

- 8. 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポー ジャーに関する事項
- イ. 中間連結貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係 る中間連結貸借対照表計上額

(単位: 百万円)

	平成26	年9月末	平成27年9月末		
	中間連結貸借 対照表計上額	時 価	中間連結貸借 対照表計上額	時 価	
- 上場株式等 エクスポージャー	52,435		57,117		
上記に該当しない 出資等又は株式等 エクスポージャー	1,590		1,640		
合計	54,026	54,026	58,757	58,757	

(注) 投資信託を通じて保有しているエクスポージャーは含んでおりません。

ロ. 出資等又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う 損益の額

(単位:百万円)

	平成26年9月末	平成27年9月末
売却損益額	626	214
償却額	133	_

ハ. 中間連結貸借対照表で認識され、かつ、中間連結損益計算 書で認識されない評価損益の額

(単位:百万円)

	平成26年9月末	平成27年9月末
中間連結貸借対照表で認識され、 中間連結損益計算書で認識されな い評価損益の額	21,040	26,965

二. 中間連結貸借対照表及び中間連結損益計算書で認識されな い評価損益の額

(単位:百万円)

	平成26年9月末	平成27年9月末
子会社・関連会社株式	_	_

- ホ. 自己資本比率告示附則第13条が適用される株式等エクス ポージャーの額及び株式等エクスポージャーのポートフォ リオの区分ごとの額 該当ありません。
- 9. 信用リスク・アセットのみなし計算が適用され るエクスポージャーの額 該当ありません。
- 10. 銀行勘定における金利リスクに関して連結グ ループが内部管理上使用した金利ショックに対 する損益又は経済的価値の増減額

(単位:百万円)

	平成26年9月末	平成27年9月末
金利ショックに対する経済価値の増減額 (VaR)	1,468	1,339

〔前提条件等〕分散共分散法、信頼水準99%、保有期間2か月、観測期間5年 (商品有価証券のみ 信頼水準99%、保有期間2週間、観測期間1年)

(注) 要求払預金は、実質的なマチュリティを内部モデルで推計したうえでVaRの算出を行っており 2) 委託が加速は、美典的なマチェリティを呼加モアルで発出したころ。でVaROJ昇出を行っております。 ます。 また、関連子会社における金利リスクの算定を行っていないため、単体の計数と同額でありま す。

## 自己資本の構成に関する開示事項(単体)

項目	平成26年9月末	経過措置による不算入額	平成27年9月末	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目(1)	,			
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	121,521		126,853	
うち、資本金及び資本剰余金の額	20,369		20,443	
うち、利益剰余金の額	102,366	***************************************	108,267	
うち、自己株式の額(△)	661	***************************************	1,309	
うち、社外流出予定額(△)	553		548	
うち、上記以外に該当するものの額	_			
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	62		57	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	2,573		2,994	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	2,573		2,994	
うち、適格引当金コア資本算入額				
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	·			
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額				
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、	-			
コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額 	_		_	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、 コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	2,214		1,958	
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	126,371		131,863	
コア資本に係る調整項目(2)	Т	T -		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。) の額の合計額	<u> </u>	1,740	305	1,221
うち、のれんに係るものの額	<u> </u>			
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	<u> </u>	1,740	305	1,221
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	<u> </u>			
適格引当金不足額	<del>-</del>			
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額			<del>_</del>	
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	<del>.</del>		<del>-</del>	
前払年金費用の額	<del>-</del>	4,613	1,076	4,305
自己保有普通株式等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額				
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	<u> </u>		<del>-</del>	
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	<u> </u>		<del>-</del>	
特定項目に係る十パーセント基準超過額			<u> </u>	
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	<u> </u>		<u> </u>	
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	<u> </u>		<u> </u>	
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	<u> </u>		<u> </u>	
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	_		_	
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	_		_	
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	_		_	
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	<u> </u>		<u> </u>	
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	_		1,381	
自己資本				
<u>自己資本の額((イ) - (ロ))</u> (ハ)	126,371		130,481	
リスク・アセット等(3)				
信用リスク・アセットの額の合計額	1,059,638		1,093,736	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	6,353		5,527	
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	1,740		1,221	
うち、繰延税金資産			<del>-</del>	
うち、前払年金費用	4,613		4,305	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	<u> </u>		<u> </u>	
うち、上記以外に該当するものの額	<u> </u>		<u> </u>	
うち、少数出資金融機関等の対象普通株式等	_		<u> </u>	
うち、土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額	<u> </u>		_	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	<u> </u>		_	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	59,987		58,746	
信用リスク・アセット調整額	<u> </u>		<u> </u>	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	<u> </u>		<u> </u>	
リスク・アセット等の額の合計額 (二)	1,119,625		1,152,482	
	·			
自己資本比率(ハ)/(二))	11.28%		11.32%	

## 定量的な開示項目(単体)

1. 自己資本の充実度に関する事項

イ. 信用リスクに対する所要自己資本の額 (単位:百万円						
項目	平成264	年9月末	平成27:	年9月末		
· 供 · 日	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額		
【資産(オン・バランス)項目】						
現金	_	_	_	_		
我が国の中央政府及び中央銀行向け	_	_	<u> </u>	_		
外国の中央政府及び中央銀行向け	445	17	434	17		
国際決済銀行等向け	_	<del>-</del>	<del>-</del>	_		
我が国の地方公共団体向け	_	_	<u> </u>	_		
外国の中央政府等以外の公共部門向け	773	30	648	25		
国際開発銀行向け	_	_	3	0		
地方公共団体金融機構向け	355	14	588	23		
我が国の政府関係機関向け	3,348	133	3,323	132		
地方三公社向け	_	_	<u> </u>	_		
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	46,046	1,841	40,754	1,630		
法人等向け	389,736	15,589	400,819	16,032		
中小企業等向け及び個人向け	240,397	9,615	252,916	10,116		
抵当権付住宅ローン	22,049	881	21,400	856		
不動産取得等事業向け	92,477	3,699	96,696	3,867		
三月以上延滞等	1,919	76	1,710	68		
取立未済手形	0	0	<u> </u>	_		
信用保証協会等による保証付	6,627	265	6,455	258		
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	_	_	<u> </u>	_		
出資等	60,754	2,430	58,850	2,354		
(うち出資等のエクスポージャー)	60,754	2,430	58,850	2,354		
(うち重要な出資のエクスポージャー)	_	<del>-</del>	<del>-</del>	_		
上記以外	164,916	6,596	178,051	7,122		
(うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に 該当するもの以外のものに係るエクスポージャー)	_	_	1,250	50		
(うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー)	_	_	_	_		
(うち上記以外のエクスポージャー等)	164,916	6,596	176,801	7,072		
証券化(オリジネーターの場合)	_	<del>-</del>	<del>-</del>	_		
(うち再証券化)	_	<u> </u>	<del>-</del>	_		
証券化(オリジネーター以外の場合)	1,228	49	709	28		
(うち再証券化)	_	_	<del>-</del>	_		
複数の資産を裏付とする資産(いわゆるファンド)のうち、個々の 資産の把握が困難な資産	1,690	67	_	_		
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	6,353	254	5,527	221		
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	_		_	_		
資産 (オン・バランス) 計 (イ)	1,039,122	41,564	1,068,891	42,755		

項目	平成26	年9月末	平成27年	₹9月末
<b>頃 日</b> 	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
【オフ・バランス取引等項目】				
任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	<u> </u>	<u> </u>	_	<del>-</del>
原契約期間が 1 年以下のコミットメント	159	6	97	3
短期の貿易関連偶発債務	0	0	_	_
特定の取引に係る偶発債務	2,226	89	2,451	98
(うち経過措置を適用する元本補填信託契約)	<del>-</del>	<del></del>		<del></del>
NIF又はRUF	<del>-</del>	<del>_</del>	<del></del>	<del></del>
	7,857	314	11,392	455
	<u> </u>	<del></del>	<del>_</del>	<del></del>
	2,854	114	2,749	109
 (うち借入金の保証)	2,854	114	2,749	109
 (うち有価証券の保証)	<u> </u>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>
 (うち手形引受)	<u> </u>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
 (うち経過措置を適用しない元本補填信託契約)	<u> </u>	<del></del>	<del></del>	
(うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供)	<u> </u>	<u> </u>	—	—
	<u> </u>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等(控除前)	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
控除額 (△)	<u> </u>	<del></del>	<del></del>	
先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	<u> </u>	<del></del>	<del></del>	<del></del>
有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は 有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	4,036	161	4,192	167
派生商品取引及び長期決済期間取引	1,348	53	1,564	62
カレント・エクスポージャー方式	1,348	53	1,564	62
派生商品取引	1,348	53	1,564	62
外為関連取引	1,207	48	1,429	57
金利関連取引	141	5	135	5
金関連取引		—	—	—
	<u> </u>	<del></del>	<del></del>	
貴金属(金を除く)関連取引	<del></del>	<del>-</del>	<del></del>	<del>-</del>
その他のコモディティ関連取引	† <b>-</b>	<b>-</b>	_	—
クレジット・デリバティブ取引 (カウンター・パーティー・リスク)	† <b>-</b>		_	
一括清算ネッティング契約による与信相当額削減効果(△)	<u> </u>	<del>-</del>	<del></del>	<del></del>
長期決済期間取引	<u> </u>	<del>-</del>		<del></del>
標準方式	† <u>-</u>	<del>-</del>		—
期待エクスポージャー方式	<u> </u>	<del>-</del>		<del></del>
未決済取引	<u> </u>			<del>-</del>
証券化エクスポージャーに係る適格流動性補完及び 適格なサービサー・キャッシュ・アドバンス	_			<u> </u>
上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	<del> </del>	<u> </u>		
オフ・バランス取引等計 (ロ)	18,483	739	22,447	897
【CVAリスク相当額】(簡便的リスク測定方式) (ハ)	2,022	80	2,346	93
【中央清算機関関連エクスポージャー】 (二)	10	0	51	2
1十人/月昇版   ((イ) + (ロ) + (ハ) + (二)		42,385	1,093,736	43,749
<b>口 6</b>	1,033,030	72,303	1,000,700	73,743

#### ロ. オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

(単位:百万円) 平成26年9月末 平成27年9月末 オペレーショナル・リスク(粗利益配分手法) 2,399 2,349

#### ハ. 単体総所要自己資本の額

(単位:百万円) 平成26年9月末 平成27年9月末 単体総所要自己資本の額合計 44,785 46,099

2. 信用リスク(信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く。)に関する事項 イ. 信用リスクに関するエクスポージャーの中間期末残高 (地域別、業種別、残存期間別) (単位:百万円)

(単位:百万円)

	平成26年9月末						
			-ジャー中間期末残高		三月以上延滞		
	合 計	うち貸出金等 (注)1	うち債券	うちデリバティブ	エクスポージャー (注)2		
国内計	2,835,606	1,664,891	817,962	3,493	5,758		
国外計	91,174	2,080	85,304	_	_		
地域別合計	2,926,781	1,666,971	903,266	3,493	5,758		
製造業	289,342	179,302	95,531	477	1,459		
農業、林業	6,404	6,401	<del></del>	3	368		
漁業	138	138		<del>-</del>	<del>-</del>		
鉱業、採石業、砂利採取業	11,115	10,980		<b>—</b>	<b>—</b>		
建設業	72,823	67,076	4,794	6	191		
電気・ガス・熱供給・水道業	36,895	32,652	3,228	6 0			
情報通信業	18,982	16,916	1,019	0	27 22		
運輸業、郵便業	61,861	35,521	23,994	1	22		
卸売業、小売業	173,093	159,867	7,707	106	1,249		
金融業、保険業	413,474	193,057	69,244	2,681	<del>-</del>		
不動産業、物品賃貸業	174,462	132,224	31,702	2	711		
学術研究、専門・技術サービス業	5,578	5,574	<del></del>	<del></del>	24		
宿泊業	14,625	14,519		<del>-</del>	57		
飲食業	8,430	8,430		0	131		
生活関連サービス業、娯楽業	12,903	10,748	2,064	0	827		
教育、学習支援業	2,537	2,537	<del></del>	<del></del>	<del></del>		
医療・福祉	65,532	65,529	<del></del>	2	52 28		
その他のサービス	28,498	27,668	354	4	28		
国・地方公共団体	1,060,893	378,228	621,764	<u> </u>	_		
個人	321,955	319,596	_	203	606		
その他	147,232	<del>-</del>	41,860	0	<del>-</del>		
業種別合計	2,926,781	1,666,971	903,266	3,493	5,758		
1年以下	426,075	186,380	100,793	1,283	67		
1年超3年以下	432,081	181,482	244,366	1,123	967		
3年超5年以下	437,156	204,182	221,574	486	148		
5年超7年以下	314,346	148,660	160,995		224		
7年超	809,940	622,125	175,536	600	701		
期間の定めのないもの	507,181	324,140	<del></del>	<del>-</del>	3,649		
残存期間別合計	2,926,781	1,666,971	903,266	3,493	5,758		

(地域別、業種別、残存期間別)

	平成27年9月末							
		信用リスクエクスポー	-ジャー中間期末残高		三月以上延滞			
	合 計	うち貸出金等 (注)1	うち債券	うちデリバティブ	エクスポージャー (注)2			
国内計	2,897,971	1,706,057	761,482	4,971	4,138			
国外計	112,329	2,980	103,120	<del></del>	<del>-</del>			
地域別合計	3,010,301	1,709,037	864,602	4,971	4,138			
製造業	289,311	181,002	93,782	529	540			
農業、林業	7,237	7,236	<del>-</del>	0	62			
漁業	136	136	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>			
鉱業、採石業、砂利採取業	10,554	10,419	_	_	_			
建設業	76,309	68,164	7,105	3	272			
電気・ガス・熱供給・水道業	46,517	42,846	2,649	0	_			
情報通信業	17,145	13,774	2,324	0	2			
運輸業、郵便業	69,853	42,224	25,283	0	22			
卸売業、小売業	173,003	160,304	7,312	127	1,262			
金融業、保険業	392,730	199,607	61,935	4,258	175			
不動産業、物品賃貸業	192,419	143,366	31,791	1	827			
学術研究、専門・技術サービス業	5,597	5,593	<del>-</del>	<del>-</del>	31			
宿泊業	14,619	14,514	<del>-</del>	<del>-</del>	107			
飲食業	8,070	8,049	_	0	113			
生活関連サービス業、娯楽業	12,401	11,161	1,150	0	91			
教育、学習支援業	2,776	2,776	_	0	2			
医療・福祉	62,915	62,913	<del>-</del>	2	41			
その他のサービス	29,385	28,683	184	1	66			
国・地方公共団体	1,104,148	378,050	591,726		<del>-</del>			
個 人	330,552	328,213	_	44	515			
その他	164,613	<del>-</del>	39,356	0	<del>-</del>			
業種別合計	3,010,301	1,709,037	864,602	4,971	4,138			
1年以下	394,402	157,565	119,988	2,787	102			
1年超3年以下	414,526	176,157	232,431	1,553	73			
3年超5年以下	443,868	213,964	206,911	30	144			
5年超7年以下	319,918	166,292	149,247	<del></del>	131			
7年超	854,760	673,898	156,023	600	694			
期間の定めのないもの	582,824	321,158			2,992			
残存期間別合計	3,010,301	1,709,037	864,602	4,971	4,138			

プ**大打行州间が回言** S,U I U,SU I
 I, / U Y,U S /
 864,6U2
 4,971
 4,138

 (注) 1. 貸出金等は貸出金 (三月以上延滞エクスポージャーを除く) とオフ・パランス取引(デリバティブ取引を除く)の合計であります。
 2. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日を起算日として3か月以上延滞しているエクスポージャー、または引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%であるエクスポージャーであります。
 3. 上表には、CVAリスク相当額及び中央清算機関関連エクスポージャーは含めておりません。

#### ロ. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の中間期末残高及び期中の増減額

(単位:百万円)

(+ E · C/31 3/								
		平成26年9月末			平成27年9月末			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高
一般貸倒引当金	3,341	2,573	3,341	2,573	2,346	2,994	2,346	2,994
個別貸倒引当金	16,816	15,109	16,816	15,109	14,122	12,787	14,122	12,787
特定海外債権引当勘定	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<del>-</del>	<del>-</del>	<u> </u>	<u> </u>	<del></del>
貸倒引当金合計	20,157	17,682	20,157	17,682	16,468	15,781	16,468	15,781

#### ◇一般貸倒引当金の地域別、業種別内訳

(単位:百万円)

	平成26年9月末			平成27年9月末				
	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高
国内計	3,341	2,573	3,341	2,573	2,346	2,994	2,346	2,994
国外計	<u> </u>	_	<u> </u>	<u> </u>	<del>-</del>	<u> </u>	_	<u> </u>
地域別合計	3,341	2,573	3,341	2,573	2,346	2,994	2,346	2,994

<sup>※</sup>業種別については区分ごとの算定を行っておりません。

#### ◇個別貸倒引当金の地域別、業種別内訳

	平成26年9月末				平成275	年9月末		
	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高
国内計	16,816	15,109	16,816	15,109	14,122	12,787	14,122	12,787
国外計	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	_	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	_
地域別合計	16,816	15,109	16,816	15,109	14,122	12,787	14,122	12,787
製造業	4,398	2,550	4,398	2,550	2,377	2,297	2,377	2,297
農業、林業	380	347	380	347	77	69	77	69
漁 業	0	0	0	0	0	7	0	7
鉱業、採石業、砂利採取業	9	9	9	9	9	8	9	8
建設業	2,905	2,647	2,905	2,647	2,636	786	2,636	786
電気・ガス・熱供給・水道業	<del>-</del>	<del>-</del>	<u> </u>	<u> </u>	<del>-</del>	<del>-</del>	<del>-</del>	<u> </u>
情報通信業	31	28	31	28	0	0	0	0
運輸業、郵便業	28	54	28	54	48	42	48	42
卸売業、小売業	2,708	2,759	2,708	2,759	1,790	1,774	1,790	1,774
金融業、保険業	78	73	78	73	190	146	190	146
不動産業、物品賃貸業	1,295	1,224	1,295	1,224	1,925	1,827	1,925	1,827
学術研究、専門・技術サービス業	41	43	41	43	44	44	44	44
宿泊業	3,142	3,491	3,142	3,491	3,618	4,201	3,618	4,201
飲食業	526	444	526	444	489	461	489	461
生活関連サービス業、娯楽業	818	870	818	870	162	181	162	181
教育、学習支援業	3	<u> </u>	3	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<del>-</del>
医療・福祉	51	250	51	250	445	446	445	446
その他のサービス	115	96	115	96	150	332	150	332
国・地方公共団体	_	_	_	_	_	_	_	_
個 人	278	217	278	217	154	159	154	159
その他	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	_	_	_	_	_
業種別合計	16,816	15,109	16,816	15,109	14,122	12,787	14,122	12,787

#### ハ. 業種別の貸出金償却の額

(単位:百万円)

		(+12 : 12)1 1/
業種名	平成26年9月末	平成27年9月末
製造業	_	0
農業、林業	<del>-</del>	<del>-</del>
漁業	_	<del>-</del>
鉱業、採石業、砂利採取業	<del>-</del>	<del></del>
	_	<del>-</del>
電気・ガス・熱供給・水道業	<u> </u>	<del>-</del>
情報通信業	<del>-</del>	<del></del>
運輸業、郵便業	<u> </u>	<del>-</del>
卸売業、小売業	_	_
金融業、保険業	_	<u> </u>
不動産業、物品賃貸業	<del>-</del>	<del></del>
学術研究、専門・技術サービス業	<u> </u>	<del>-</del>
 宿泊業	_	_
 飲食業	_	<u> </u>
生活関連サービス業、娯楽業	<del>-</del>	<del></del>
教育、学習支援業	<u> </u>	<del></del>
医療・福祉	_	<u> </u>
その他のサービス	<u> </u>	<u> </u>
国・地方公共団体	<del>-</del>	<del></del>
個 人	<u> </u>	<del></del>
その他	_	—
業種別合計	<u> </u>	0

二. 標準的手法が適用されるエクスポージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高

				(単位・日万円)
リスク・	平成264	年9月末	平成27年	年9月末
ウェイト区分	格付あり(注)	格付なし	格付あり(注)	格付なし
0%	_	1,163,737	_	1,221,017
10%	<u> </u>	106,778	<u> </u>	102,114
20%	81,934	318,668	74,939	308,010
35%	<del>-</del>	62,999	<del></del>	61,143
50%	299,000	2,438	313,042	2,722
75%	<u> </u>	321,389	<u> </u>	338,080
100%	67,604	476,079	49,978	514,529
150%	<del>-</del>	957	<del></del>	912
250%		<del>-</del>	500	<u> </u>
1250%	_	_	_	_
合計	448,539	2,453,048	438,460	2,548,529

(注)格付は告示第65条(法人向けエクスポージャー)において適格格付機関の格付が付与されているエクスポージャーを基準としております。

- 3. 信用リスク削減手法に関する事項
- イ. 標準的手法が適用されるポートフォリオについて、適格金融 資産担保が適用されたエクスポージャーの額

(単位:百万円)

担保区分	平成26年9月末	平成27年9月末
現金及び自行預金(注)	108,412	112,991
金	<del>-</del>	_
適格債券	<del>-</del>	_
適格株式	<del>_</del>	<del>-</del>
適格投資信託	<del>_</del>	<u> </u>
適格金融資産担保合計	108,412	112,991

(注) 現金及び自行預金には、貸出金と自行預金との相殺によって削減されたエクスポージャーの額を含んでおります。

ロ. 標準的手法が適用されるポートフォリオについて、保証又はクレジット・デリバティブが適用されたエクスポージャーの額

		(単位:百万円)
保証区分	平成26年9月末	平成27年9月末
適格保証	5,599	5,269
適格クレジット・デリバティブ	<del></del>	<del>-</del>
適格保証、クレジット・デリバティブ合計	5,599	5,269

- 4. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項
- イ. 与信相当額の算出に用いる方式 カレント・エクスポージャー方式により算出しております。
- ロ. グロスの再構築コスト(零を下回らないものに限る。)の 合計額

(単位:百万円)

	平成26年9月末	平成27年9月末
グロス再構築コスト	753	2,228

ハ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信 相当額

(単位:百万円)

		(単位·日月円)
種類及び取引区分	平成26年9月末	平成27年9月末
外国為替関連取引及び金関連取引	2,788	4,296
金利関連取引	705	675
株式関連取引	<del></del>	<del>-</del>
貴金属関連取引(金関連取引を除く)	<del>-</del>	_
その他のコモディティ関連取引	<del></del>	<del>_</del>
クレジット・デリバティブ	<del></del>	
合計	3,493	4,971

- (注) 原契約期間が5営業日以内の外為関連取引の与信相当額は上記記載から除いております。
- 二. 口に掲げる合計額及びグロスのアドオンの合計額からハに 掲げる額を差し引いた額(カレント・エクスポージャー方式を用いる場合に限る。) 該当する金額はありません。
- ホ. 担保の種類別の額

信用リスク削減のために担保は用いておりません。

へ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信 相当額

「ハ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額」と同額であります。

- ト. 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの 想定元本額をクレジット・デリバティブの種類別、かつ、 プロテクションの購入又は提供の別に区分した額 クレジット・デリバティブ取引を行っていないため、該 当ありません。
- チ. 信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額 クレジット・デリバティブ取引を行っていないため、該当ありません。

- 5. 証券化エクスポージャーに関する事項
- イ. 当行がオリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

ロ. 当行が投資家である証券化エクスポージャーに関する事項(1) 保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の 種類別の内訳

○オン・バランス取引

(単位:百万円)

	(単位・日が)					
原債権の種類	再証券化を	除く証券化	再証券化			
ぶ貝性の性類	平成26年9月末	平成27年9月末	平成26年9月末	平成27年9月末		
住宅ローン債権	2,441	1,927	_	_		
自動車ローン債権	1,785	2,275	_	_		
消費者ローン・割賦債権	1,916	1,271	_	_		
売掛債権	_	<u> </u>	_	<u> </u>		
事業者向け貸出債権	<u> </u>	<del></del>	<del></del>	<u> </u>		
不動産向け債権	_	<del>-</del>	<u> </u>	_		
リース債権	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<u>—</u>		
その他	<u> </u>	<del></del>	<del>-</del>	<u> </u>		
合計	6,143	5,475	_	_		

○オフ・バランス取引

オフ・バランス取引については該当ありません。

(2) 保有する証券化エクスポージャーのリスク・ウェイト区分ごとの残高及び所要自己資本の額

○オン・バランス取引

(単位:百万円)

	再証	券化を	除く証	券化		再証	券化	
リスク・		年9月末	平成275	年9月末	平成26	年9月末	平成275	年9月末
ウェイト区分	残高	所要自己 資本額	残高	所要自己 資本額	残高	所要自己 資本額	残高	所要自己 資本額
20%	6,143	49	5,475	43	_	_	_	_
50%	_	_	_	_	_	_	_	_
100%	_	_	_	_	_	_	_	_
350%	_	_	_	_	_	_	_	_
1250%	_	_	_	_	_	_	_	_
合計	6,143	49	5,475	43	_	_	_	_

○オフ・バランス取引

オフ・バランス取引については該当ありません。

- (3) 自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250% のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャー の額及び主な原資産の種類別の内訳
  - ○オン・バランス取引

(単位:百万円)

原債権の種類	再証券化を	除く証券化	再証券化		
原頃惟の俚規	平成26年9月末	平成27年9月末	平成26年9月末	平成27年9月末	
貸付債権	_	_	_	_	
不動産向け債権	_		<del></del>	<u> </u>	
その他	<u> </u>	<u> </u>	<u>—</u>	<del></del>	
合計	_	_	_	_	

○オフ・バランス取引

オフ・バランス取引については該当ありません。

(4) 保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク 削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適 用されるリスク・ウェイト区分ごとの内訳 該当ありません。 6. マーケット・リスクに関する事項

自己資本比率算定において、マーケット・リスク相当額に係る額を算入していないため、本項目に記載する事項はありません。

- 7. 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項
- イ. 中間貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係る中 間貸借対照表計上額

(単位:百万円)

	平成26	∓9月末	平成27	年9月末
	中間貸借 対照表計上額	時 価	中間貸借 対照表計上額	時 価
上場株式等 エクスポージャー	52,435		57,117	
上記に該当しない 出資等又は株式等 エクスポージャー	2,416		2,414	
合計	54,852	54,852	59,531	59,531

(注) 投資信託を通じて保有しているエクスポージャーは含んでおりません。

□. 出資等又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う 損益の額

(単位:百万円)

	平成26年9月末	平成27年9月末
売却損益額	626	214
償却額	133	_

ハ. 中間貸借対照表で認識され、かつ、中間損益計算書で認識 されない評価損益の額

(単位:百万円)

	平成26年9月末	平成27年9月末
ー 中間貸借対照表で認識され、中間 損益計算書で認識されない評価損 益の額	21,040	26,965

二. 中間貸借対照表及び中間損益計算書で認識されない評価損益 の額

(単位:百万円)

		(112 273137
	平成26年9月末	平成27年9月末
子会社・関連会社株式	_	_

- ホ. 自己資本比率告示附則第13条が適用される株式等エクスポージャーの額及び株式等エクスポージャーのポートフォリオの区分ごとの額 該当ありません。
- 8. 信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額 該当ありません。
- 9. 銀行勘定における金利リスクに関して当行が内 部管理上使用した金利ショックに対する損益又 は経済的価値の増減額

(単位:百万円)

	平成26年9月末	平成27年9月末
金利ショックに対する経済価値の増減額 (VaR)	1,468	1,339

[前提条件等] 分散共分散法、信頼水準99%、保有期間2か月、観測期間5年 (商品有価証券のみ 信頼水準99%、保有期間2週間、観測期間1年)

(注) 要求払預金は、実質的なマチュリティを内部モデルで推計したうえでVaRの算出を行っております。

# 開示項目一覧

#### 銀行法施行規則に基づく開示項目

三当	体ベー	-ス	
1	概要・	組織に関する事項	
	大株主		39
2	主要な	は業務に関する事項	
	(1) 営	営業の概要	19
	(2) 主	:要な経営指標等の推移······	19
	(3) 業	養務に関する指標	
	аÌ	要な業務の状況	
	(a)	業務粗利益・業務粗利益率	25
	(b)	資金運用収支・役務取引等収支・	
		その他業務収支25・26・	27
	(c)	資金運用勘定・資金調達勘定の平均残高ほか 25・26・	38
	(d)	受取利息・支払利息の増減	27
	(e)	総資産経常利益率・資本経常利益率	38
		総資産中間純利益率・資本中間純利益率	38
	b預	金	
	(a)	預金科目別平均残高	28
	(b)	定期預金の残存期間別残高	28
	c ∯	:	
	(a)	貸出金科目別平均残高	29
		貸出金の残存期間別残高	31
		貸出金・支払承諾見返担保別内訳	29
		貸出金使途別内訳	30
		業種別貸出金内訳······	30
		中小企業等向け貸出金残高・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
		特定海外債権残高	31
	_	預貸率	38
		百価証券 	
		 商品有価証券の平均残高·······	32
	(b)	有価証券の残存期間別残高	32
		有価証券の平均残高・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
		預証率	38
3		)運営に関する事項	
		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 3
4		)状況に関する事項	
		中間貸借対照表・中間損益計算書・	
	4		21
	را (2)	リスク管理債権額	29
	a 破	按綻先債権額	
	b 延	E滞債権額	
	c 3	カ月以上延滞債権額	
	d∯	官出条件緩和債権額	
	(3) 自	    記資本の充実の状況	47
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	a ≢	ā価証券······ 33·	34
		会銭の信託	34
			37
		音倒引当金中間期末残高及び期中増減額	30
		:::::::::::::::::::::::::::::::::::::	31
		・ ・融商品取引法に基づく監査証明·····	20

#### ■連結ベース

1	銀行・子会社等の主要な業務に関する事項	
	(1) 営業の概要	. 8
	(2) 主要な経営指標等の推移	. 9
2	銀行・子会社等の財産の状況に関する事項	
	(1) 中間連結貸借対照表・中間連結損益計算書・	
	中間連結株主資本等変動計算書 10・	11
	(2) リスク管理債権額	18
	a 破綻先債権額	
	b 延滞債権額	
	c 3ヵ月以上延滞債権額	
	d 貸出条件緩和債権額	
	(3) 自己資本の充実の状況	40
	(4) セグメント情報	18
	(5) 金融商品取引法に基づく監査証明	10
金	融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく開示項目	1

資産査定の状況 -----------------------29

本誌は、銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料 (業務及び財産の状況に関する説明書類)です。

